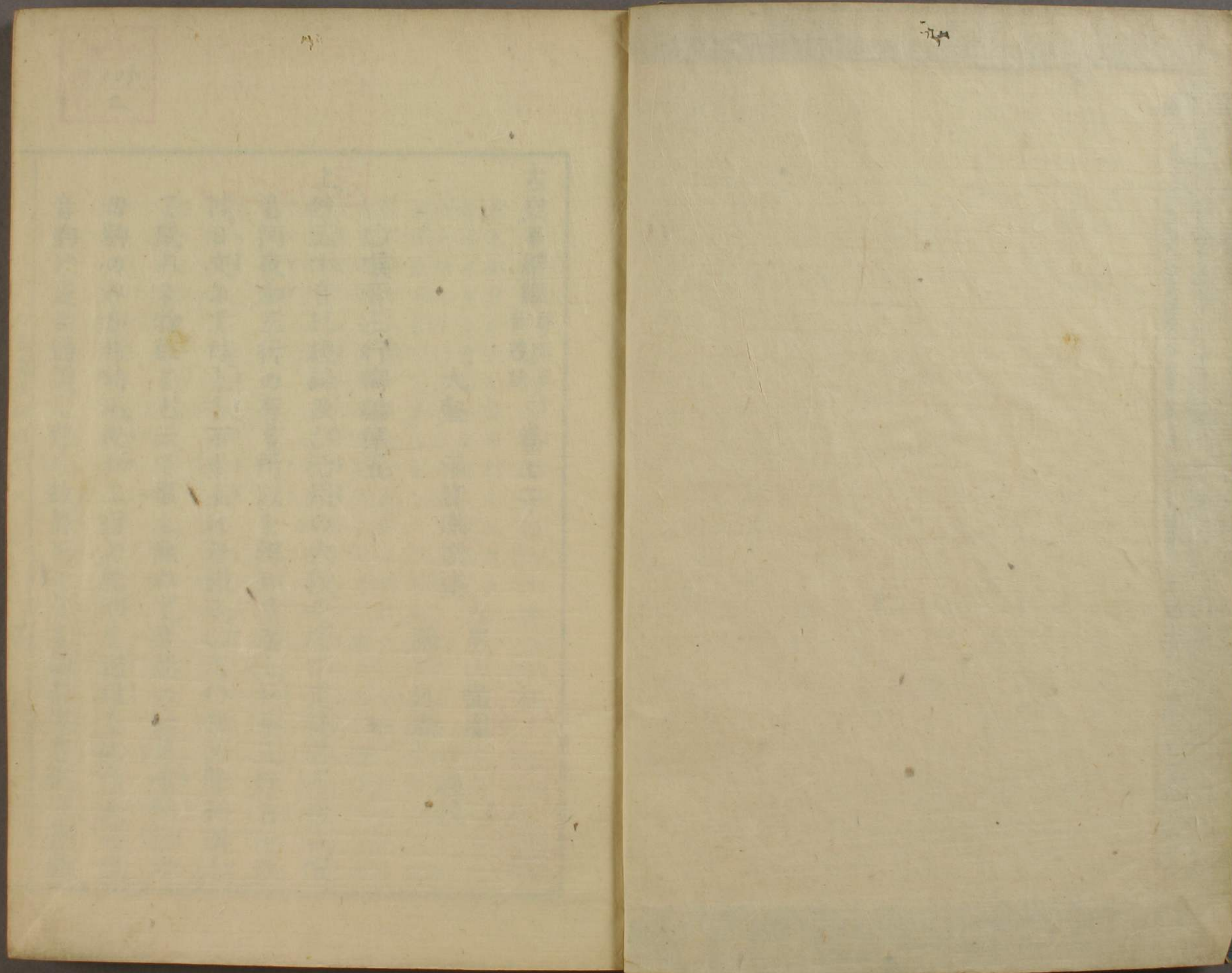


古史本辭經  
二



ホ 2  
105  
2





利門  
105  
卷二



古史本辭經

亦云五十音義訣

卷出二



大壑 平篤胤撰述

男 鐵胤

孫 延胤

謹校

○喉音三行辯論第五

上件五十音法經緯及び活用の大段をて小定はて後小喉音阿夜和三行の有る所以を辨知るを。抑是三行あゆ故は。日文ルては。上。下。上。此母韻。○工。○此父聲相偶して成れる物れ。と云て事も無れ。音韻の始免唯阿行の母韻のみあつ時。夜和二行の生ぜし道理を心得ては。音韻比道よ通達し難。故等。其は於字音假字用格

小。喉音三行辯といふ條多成立られて。其説小。此三行もアイ  
 ウエオとゆ分分カまコと依音コ小して。其本は一ツあり。然て一ツ小し  
 て三ツ分れ多多る所以コ也。アイウエオ此五音の下レ下レは各  
 アイウエオ此五音カ成重カ重カをば。自然とカ成カはカて。ヤイユ  
 エヨ。ワ平ウエヲの音とれる故リ。別小此二行も有るあり。  
 喉音小此レ此レ差別ありて。餘のカサタナハレラ此七行ヲ  
 是無キといハのレ小レ云ハ。まカヤ行ヲの音モ。もと二音カ於  
 於重カありレる物カありバ。実カ謂ハゆる拗音あり。然れレども喉  
 音カ。餘音カ。類カせカ。柔カ。輒カ。隱カ。微カ。依カ。故リ。二音カ於カ。重カありレども喉  
 も。自カ。於カ。うカ。らカ。切カ。てカ。直カ。音カ。のカ。如カ。余カ。るカ。故リ。二音カ。小カ。分カ。れカ。てカ。諦カ。小カ。拗  
 あり。餘カ。此カ。七カ。行カ。もカ。二カ。音カ。をカ。重カ。ぬカ。るカ。時カ。もカ。二カ。音カ。小カ。分カ。れカ。てカ。諦カ。小カ。拗  
 音カ。小カ。してカ。一カ。音カ。はカ。於カ。るカ。事カ。形カ。しカ。故リ。古言此中カ。小カ。アイウ  
 故リ。喉音の外カ。はカ。皆カ。單行カ。依カ。れカ。りカ。故リ。古言此中カ。小カ。アイウ  
 才の音カ。此カ。重カ。れカ。ばカ。多カ。るカ。言カ。はカ。一カ。もカ。有カ。こカ。とカ。無カ。しカ。おカ。れカ。其カ。明カ。證カ

小。老カ。肖カ。あカ。どカ。のカ。イカ。エカ。オカ。ヤカ。行カ。此カ。イカ。エカ。あカ。るカ。故リ。オカ。ユカ。アカ。ユカ。と  
 三カ。とカ。あカ。るカ。伊カ。あカ。どカ。はカ。キカ。のカ。ちカ。てカ。ヤカ。行カ。もカ。ワカ。行カ。もカ。アカ。行カ。よカ。生カ。むカ  
 轉カ。れカ。むカ。今カ。此カ。例カ。はカ。非カ。交カ。のカ。ちカ。てカ。ヤカ。行カ。もカ。ワカ。行カ。もカ。アカ。行カ。よカ。生カ。むカ  
 依音カ。形カ。るカ。故リ。三行カ。小カ。分カ。依カ。とカ。云カ。才カ。也カ。もカ。或カ。をカ。髣カ。髴カ。とカ。志カ。てカ。一カ  
 れカ。依カ。がカ。如カ。くカ。一カ。つカ。もカ。思カ。才カ。ばカ。まカ。とカ。諦カ。小カ。三カ。尔カ。してカ。古カ。はカ。混カ。淆カ。以カ  
 るカ。こカ。もカ。更カ。りカ。無カ。才カ。也カ。然カ。れカ。むカ。此カ。三行カ。也カ。是カ。字カ。音カ。成カ。辨カ。むカ。依カ。小カ。もカ。  
 亦カ。緊カ。要カ。此カ。事カ。れカ。りカ。能カ。くカ。會カ。得カ。むカ。法カ。也カ。韻カ。學カ。家カ。小カ。喉カ。音カ。をカ。論カ。せカ。るカ  
 味カ。くカ。あカ。てカ。三行カ。のカ。嚴カ。然カ。とカ。しカ。てカ。相カ。混カ。むカ。はカ。じカ。きカ。義カ。をカ。知カ。さカ。るカ。故リ  
 小。皆カ。混カ。雜カ。しカ。てカ。やカ。行カ。ワカ。行カ。もカ。畢カ。竟カ。無カ。用カ。のカ。長カ。物カ。此カ。如カ。しカ。はカ。御カ  
 小。因カ。りカ。てカ。是カ。をカ。治カ。すカ。時カ。はカ。違カ。ふカ。事カ。れカ。不カ。しカ。殊カ。不カ。喉カ。音カ。三カ  
 小。非カ。才カ。はカ。其カ。義カ。をカ。曉カ。るカ。こカ。とカ。何カ。あカ。はカ。じカ。五十連音圖中カ。尔カ。イカ。平カ。  
 工カ。工カ。オカ。ヲカ。此カ。所カ。屬カ。成カ。錯カ。りカ。てカ。或カ。をカ。平カ。をカ。ヤカ。行カ。まカ。とカ。はカ。アカ。行カ。小カ。屬カ

し。或を工哉ア行ヤ行小屬をる類多し。惑ふこと勿き。若一字も此所屬字錯ると此を。二行の辨これ明あらば先初イ是を正し置置しや誨へて。此此如文圖を作し出られしゆ。

喉三音分行生圖

(中) ア				
ア	ア	ア	ア	ア
オ	エ	ウ	イ	ア
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
オ	エ	ウ	イ	ア
(重) ウ		(輕) イ		
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
オ	エ	ウ	イ	ア
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ヲ	エ	ウ	平	ワ
ト	ト	ト	ト	ト
(重) オ		(輕) エ		
オ	オ	オ	オ	オ
オ	エ	ウ	イ	ア
モ	モ	モ	モ	モ
ヲ	エ	ウ	平	ワ
ト	ト	ト	ト	ト
エ	エ	エ	エ	エ
オ	エ	ウ	イ	ア
モ	モ	モ	モ	モ
ヨ	エ	ユ	イ	ヤ
ト	ト	ト	ト	ト

哉旁痛く思はむし故ふ。夜和二行の。阿行小生じと依説

此を當頃まで。世小韻學はと云ふ徒これ彼。文雄僧が磨光韻鏡かど小據て。其説の拙き

は誠小然事おれど。中甘れひ難く思ふ事あり。師説を始めて讀する。四十十年前の昔あるが。今小至るまで。其説變る事あり。其狀は異れども。其理同く心得易き此。一圖哉制れ。師

喉音豎横圖

於阿	延阿	字阿	伊阿	阿
於伊	延伊	字伊	伊伊	阿伊
於宇	延宇	字宇	伊宇	阿宇
於延	延延	字延	伊延	阿延
於	延於	字於	伊於	阿於

小乘るあれど。阿行小歸るよと勿論。其の中と書れし初段は。阿を以て阿行。依二段は。伊宇その父と爲りて。阿行小乘む。夜和の二



第五行の上よめ斜小下るは。和伊字延於と成て。和行此  
章惠は伊延と形也。於袁の所屬も違ふ也。思惟多深めて  
攷ふ也。先師の喉音三行分生図も。謬るはじ死事をかく  
沙門文雄が磨光韻鏡も。内轉十一の旧く開れし也。誤り  
て合り改免とる小於字その章小在るを以て。師やぐて其  
誤正を承て阿行の於於合口音を取られし故。かく誤ら  
れしあり。然れど彼字音假字用格も依喉音輕重等第圖字  
音開合指掌圖字音假字三會圖說も。其小因れる誤り少  
ら。其由を佗説も有りて。神字日文傳は。此書の四卷小  
も論へれば。此有りて。抑右此豎横圖をも。予が新制小は有  
其大略字云ふ也。抑右此豎横圖をも。予が新制小は有  
也。言靈此自然小隨ふ本圖也。其中三行も依阿和夜の  
三行も素也。阿行も出るが故。之ひて約むれ也。終  
共り阿行小歸るよと。初五此二行も同じ。然れども夜和二

行已り立て永く廢れ也。阿行の素よ正喉音れる小對  
て。夜行字半喉音と云ひ。和行也合喉音といふ。但し夜行を  
て。二行出來たれ也。其伊小成れる行のみを用ひ。伊や延と小  
延り成れる行の廢れしこと言まも更あり。ちて夜行  
は。阿行小伊字帯びて成れる故。其聲強壯小して。中も  
イエ也。阿行此イエ小比也。其重聲とも云。和行を  
阿行小字也。帯びて成るは故。其聲柔雅也。中もウ  
也。阿行のウ小比也。其重聲とも云。然れど共り喉  
音とは云。おきど。阿行のイウエ也。異小也。單音也。ら也。  
二行十音共り。實は謂ゆる拗音也。此二行の拗音れる  
小見えて。今も佗も普也。故是字以て。悉曇小も韻鏡も。此二  
小見えて。今も佗も普也。故是字以て。悉曇小も韻鏡も。此二  
小見えて。今も佗も普也。故是字以て。悉曇小も韻鏡も。此二

行小あゝ依イウエヤ。阿行のイウエヤは其音元より別あり。其音韻自然の道あり。然る小古事記書紀小。其假字の差別あり。夜和二行此イウエ共。同音此重成れる聲。阿行此イウエヤは其差別いと微ある故。自然小締て。二典の御撰ありし頃。既ち單音小呼習へる故あり。古事記此假字小。その差別あり。事記傳首卷假伊字延を用ひる。此外小。汗字一。於愛を三。於用ひ。伊を七十九。以字十二。異字十八。易を二。用ひ。ウを三十九。宇。城十八。禹を三。於汗を一。於用ひ。工を曳を二。十五。愛を二。於延を一。於用ひ。然れども。是ま。ちて二典。其差別字立とる。假字遣ひふて非ざり。は。始。假字をちり差別無れど。古言此活用。城推攷ふ。は。自

然る其差別あり。我は母城於毛とも。息を於伎也も。宇受賣を於受賣とも。得字延とも。虚言を宇都波理とも。芋城伊毛也も。何處を宇豆古也も。抱字宇陀伎とも。嚴を宇都久志とも云れど。は。諦小阿行此イウエ。取る。外小。幼を。去。魚字。い。を。阿。邪。麻。志。を。お。ぞ。ま。し。感。を。う。む。う。し。今。字。う。ま。阿。多。期。を。れ。と。ぎ。免。芽。子。を。た。て。死。お。ぞ。云。ひ。後。お。が。ら。動。を。お。ご。と。云。ふ。れ。ど。善。城。余。と。も。往。字。以。伎。と。も。奴。を。以。都。古。也。も。忽。を。以。流。加。世。と。も。夢。を。由。米。也。も。壹。伎。字。由。伎。也。も。齋。利。城。由。麻。波。理。と。も。云。れ。ど。は。夜。行。此。イ。ウ。エ。免。城。乎。佐。藝。敬。を。章。夜。麻。比。無。禮。を。宇。夜。那。志。禮。儀。を。宇。夜。波。比。現。字。袁。都。く。亦。を。宇。計。良。虚。城。袁。曾。と。云。れ。ど。和。行。の。ウ。れ。也。此。等。大。の。さ。語。意。又。出。さ。



まとの言等あるが彼宇斯いまど於表の所属此違へる事  
小心著れざし故に謬られし事も有れば引直して著  
せるあり子細に求めざる言のミを出せるなり。今  
て頓し心小浮める言のミを出せるなり。今  
かく判然と別じけり。其假字此異らざる由無れど神  
字此み用ひし世此古書小は決く其假字此差別有らむを。  
漢字此假字小用ひし後よ。漸次小混錯して來ふらむ。其は  
古事記をてよ其差別れり。書紀も帝王本紀多有古字撰集  
之人屢經遷易。後人以意刊改。傳寫既多。遂致舛雜と有る也。  
神世字を漢字小改ある事と聞ゆれり。此文此意季く  
記まよ日文傳よ云ふ也。然て古事記よ正も古き書ハ上宮  
法王帝説あり。是まよ六音混合して其差別あること無し。  
抑天地自然此音聲の五十れる事は必然るなり。惟神此道

理お依が故り。赤縣印度の末國也。其音韻具ハして有る  
を。神の本國とる大御國小。其音此元よ正缺ると云ふまよ。  
絶て有らば事小非補也。此を人世と取て。古字を漢字小  
易ふる時ごせよ。彼邦此字音の朦朧とるよ。阿夜和三行  
此音此混錯して。遂小三音此失ひ多依物とぞ所思也。其  
思ひ合さ依。事也。今しも漢字音を詳小して。旧く用ひ來  
れる三行の假字どもを檢て依り。二典万葉その餘此書等  
小も彼邦小ては。阿行小属依るイウエをもて。我が夜和二  
行のイウエも用ひ彼邦の夜行和行依るイウエを我が  
阿行此イウエ小用むる類ひ此混雜。今  
一々り勝る小違あらざるを以て知る。然れど此今し  
何小思ふとも。古小復去るき便を死事取也。然を有れ。三行  
此真假字各々そ此字の異らては。語譯小意を竭し難き事

ども有れむ。上の訂正圖。三行の假字採別小して。己が文  
小は。其假字採用ひと依あす。但し五十音此假字ども多く古書小用ひ馴らざる採れる  
ウ中。小。夜。行。は。出。せる。以。曳。を。か。し。こ。よ。て。も。此。行。の。字。あり。  
は。と。和。行。の。予。も。即。彼。方。此。行。小。お。ち。る。字。あり。用。ひ。於。  
然。れ。ど。も。片。假。字。草。假。字。小。於。て。も。今。殊。更。り。異。字。を。作。り。出。  
む。こ。ぞ。は。却。り。て。不。便。れ。る。事。も。有。れ。ど。本。の。如。く。イ。エ。を。通。  
お。て。阿。夜。二。行。小。用。ひ。ウ。を。も。阿。和。二。行。ち。て。然。イ。ウ。エ。此。真。  
小。通。用。せ。る。お。り。見。む。人。そ。の。意。字。得。て。ち。て。然。イ。ウ。エ。此。真。  
假字を。別小用ふ依了就てはと此所小云べき事あす。然る  
を阿行れる伊宇延と。夜和二行小出依以于曳とハ。自然了  
ちて。親子此如き尊卑小似とる差別あす。其は阿行の五聲  
は。元よと音韵の祖おれむ。其生出ある十行五段。四十五聲  
此韻了含はす。幽よと祐々て其用を成しめ。顯了ハ語の上

小在れども假小も下小在こぞ無く。はと辭の使令小預る  
事於く。殊小阿於の二聲ハ。此行字。豎小著せむ上下は位し。  
横は著せむ左右は在すて。父母此位の如ふる故了。其間お  
依伊宇延はと下小動く大と無く。然る活用採む。悉く夜和  
二行の以于曳此。稚く壯ふる小委任する趣小そ有る依。  
但し此も語意考す。阿と於を言此下はいふ事あり。中下小  
いと云ふ言はみお夜行此いりて。阿行のいよ非びとて。下  
の毛以もおあどの。動きけまを説れとる小本採きて。今加  
く考へ加とる説れるが。其謂ゆる中下此活用あり。いの一  
音此み了非交以于曳の三。今そ此活機字少う云む小萌燃  
音共小動くおせ次此如し。今そ此活機字少う云む小萌燃  
然毛曳も也。毛夜志と動む。悔の久以く也。久夜美と動き。老  
の於以。お也。動ま。萎此那曳れ也と動ま。愈の伊曳い也。伊

夜須ヤスや動ユルくれどは。夜行ヤコウふるが。植飢ウヅケふど此コノ宇惠ウヱ宇ウ和ワ流ルと動ユルま。居イ此コノ須惠スヱ。ばう。須和スワ流ルと活ハタ用ラく類ルを。和行ワコウふて阿行アコウ此コノ伊宇イウ延エンふは。か。依活イカク機キあ依イ事ジなり。然シカれど夜和ヤワ此コノ二行ニコウを。阿行アコウの長子チヤウシ次子ジヤウシふして。父母フボウの勞イカク死シう代カてて。事ジを執トる。小コ抄セウ似ニとゆれ。依イ。此コノ類ルある言コトども猶ナカ多クう依イる。其ソノをみあ知る事コトあてたい。おゆれど活イカクくも。詞コト此コノ八ハ衢ク不フ謂イフゆる。中ナカ二段ニダンの活イカク用ヨウと云イフものあり。かえ。かゆれど活イカクくも。用ヨウ令メイふて。八衢ハク不フ謂イフゆる。下シタ二段ニダン此コノ活イカク用ヨウといふ物モノあり。はとう。え。う。い。せ。活イカクくも。下シタ二段ニダン此コノ活イカク用ヨウなり。幸イハくは彼カノ八衢ハクを見ミて知チべし。

○五十音義解上第六

五十音イソオン每行マイコウ五聲ゴシヤウ此コノ成ナれる先後シヤウコウは。其ソノ一イツ聲シヤウ一イツ聲シヤウ此コノ義ギは。我ワが宇斯ウシとレびる宇斯ウシ等トウの。往ヨリく小其コノ端ヘく。哉カ示シし置チてて有アる。

ど。其ソノ全ケンま説セツを。殊シツ不フ書シヤウ著シヤウハし賜ミツへる書シヤウれし。故コト今イマは。己コノが年ネンは。祿ロクく按オモひ畜モとレし趣ソウを。例レイ此コノ心利シンリのハく。ふ云イフひ述シツて。其ソノ當否アタラシク此コノ定テイ然シカる。世セ人ニ此コノ評サダし拘カはる事コトなく。先師センシ等トウの。幽ユウ此コノ質シツ志シ哉カ受ウケむと欲ホシるなり。實シヤクや五十音イソオン此コノ義ギ解ゲを。如カ此コノもやと思オモえ。指サシをゆて數カズふ。ま。早ハヤく四十年シヤウニヤウネン餘ヨリり此コノ昔コノ享キヤウ和ワ云イフ々々依イ年ネン頃キョウふ。尾張ビヤウ人ニ鈴木スズキ朗ラウが。江戶エド小コ在アる。不フ多ク互タガヒう語ゴを相アヒとる。始ハジメめ。死シ後ノチ小朗コラウが。雅言ガク音オン考コウとて。少コトう書シとる。物モノも有アる。其ソノよ。後ノチ見ミし。は。加茂カモ宇斯ウシの教キョウ子シや聞クえし。信シ濃ノウ人ニ光枝ミツエと云イフる。國クニ辞ジ解ゲと。辨ハん。せ。も。云イフふ。物モノあり。是コノら。尤モトも。見ミぬ。起キて。何ナニれ。と。云イフふ。説セツ等トウの。往ヨリく耳ミミふ。入イる。事コトも有アる。此コノ大御國オホミコクの言コトふ。古惠コノ也ナリ。いふ。音聲オンシヤウ此コノ二ニ字ジを通用コトナフし。古登コトと云イフひ古登婆コトと云イフふ。言語ゴンゴ詞辭ジジあどの字ジ等トウ哉カ通用コトナフ。

志來扱れど。赤懸モロコレ此字書等ドモ小は。其差別ある事あり。世了久  
 しく然る通用の上ウ也。今しも其議サタ不及ばむ也。益タラ邪き事此  
 如コトおとど。此義ヒトコト一通ヒトコト也。心得居らば。事コトもゆりて。不具タタハ小所トコロ  
 思ユ依事も有れむ。此コト了少イハ其差別サバも記してむ。甚旧々ゆ  
此等の文  
 字相通し用ひある様サマ也。古事記序コト先代旧辞コト勅語コト旧辞コトふ  
 ど有るは更タあり。上古之時コト言意並コト朴コト敷コト文コト構コト句コト於コト字コト即コト難コト已コト  
 因コト訓述者コト詞不逮コト心全コト以コト音連者コト事趣更コト長コト是以コト今或コト一句之  
 中交コト用音訓コト或一事之内コト全コト以コト訓錄コト即コト理コト見コト以コト注コト明コト意コトと  
 有る。言詞語辭コトふど。皆差別コトあり用コトひられ。以コト音コトと有コトも。實コトを  
 以コト聲コトと有コトべき文コトあるを思コトふ。此コトよコト後コト比書コトも用コトふる  
 様サマもみコトあり斯コト其コトはコト以コト聲コトとは。説文耳部コト小コト警音也コト。从耳コト殷聲コト。  
 殷籀文コト磬と見え。徐鍇コト通論コト小コト万物之音コト爲コト聲コト八音中コト惟  
 石聲精コト詣入於耳コト。故於文耳コト殷爲コト聲コト。殷古磬字也コトと云コトひ。字彙  
小有

氣斯有也。故云。色氣。色成文。爲音。故云。色音。楊子云。言心。色也。まると韻會。爾雅。單出。曰。色。又詩。序。色音。樂對之。則別。散。則可。以相通。詳音字。  
 音は同書音部コト小コト音聲生於心コト有節於外コト謂之コト  
注とも云へ也。  
 音コト宮商角徵羽聲也。絲竹金石匏土革木音也。从言コト含コト一コト段注コト  
意也。  
 凡音之屬皆从音コトとあり。禮記の樂記コト小コト知聲而不知音コト  
 者コト禽獸是也コトと云コト也。此語まこと史記此樂書も見也。韻會小。  
五音一以和爲主。五者成於一也。月令疏。  
云。審音以知音。審音以知樂。則色音樂三者不同矣。と韻を韻  
も何也。共了色を本とし。音枝末と爲ると説等あり。  
 會コト小説文韻和也。从音員聲コト古與均同コト未知其審單出爲聲成コト  
 文爲音コト音員爲韻コトと見也。先師等共コト小コト此字を比コト毘伎コトと訓れ  
多ゆ。  
此を五十音此上小て云は。唯子阿加佐多那波麻夜  
和良と呼と死を謂ゆる單出たり。色あり。彼香早田名  
端間箭輪等おげの義より云。ときは。既了文を成せる了。色  
音あり。下四段此色音も是。は。准ふる。然て加行以下の色

を長く曳呼ぶ各々自然了て其末小隠くと阿はて言  
伊宇延於の五音成含め是即韻と云ものみあり  
は。說文言部小。音直言曰言論難曰語。从口平聲。凡言之屬皆  
从言と見え。徐鍇が通論了。出於口爲言。君子能言滿天下無  
口過也。故於文口平爲言。平愆也。言出禍入直言曰言。無委曲  
故深戒之也やあり。韻會小本作音。今文作言。徐曰。凡直言者無所指引借譬也。周禮大司樂注發端曰。言答述曰詩禮雜記三年之喪言而不語。注言言已事也。爲人說爲語。論語曰詩三百一言以蔽之曰思無邪。左傳趙簡子稱子大叔遺我以九言皆以一句爲一言也。國策齊人有請者曰臣請三言而已矣。益一言漢書東方朔云十六學子書誦二十万言皆以一字爲一言也。とも見えとゆ。語も同部小。語論也。从言吾聲と見え。段  
注了。語者禦也。如毛說一人辯論是非謂之語。如鄭說與人相  
答問辯難謂之語と云了。はと通論了。論難曰語。語者午也。言交午也。故於文言吾爲語。易曰乱之

作也。則言語以爲階。階者漸也。起於言漸至於語也。と云以韻  
會小。增韻以言告人也。魯語何以語。子注教誡也。ふぢも見え  
と。詞は說文司部小。畧意内而言外也。从司言と見え。通論小  
詞者音内而言外在音之内。在言之外也。何以言之。惟也。思也。  
曰也。今也。斯也。若此之類皆詞也。語之助也。詩曰惟此文王又曰在城闕兮又曰  
神之格思不可度思矧可斲思書曰聲成文曰音。此詞直音内  
之助聲不出於音。故曰音之内。聲成文之内。一助聲也。言之外  
者直言曰言。惟思曰今斯之類皆在句之外爲助。故曰言之外。  
楚詞曰魂兮歸來些。亦詞也在句之外也。故於文司言爲詞。  
司者主事於外也。と何了。本韵會子集韵古作司或書作畧。通作辭。周礼大祝作六辭以通上下  
親疏遠近又見辭。辭を說文辛部小。辭說也。从辵辛。猶理  
字注とも云へゆ。

事也。段注小。今本說詩論廣韻七之所引不誤。言部曰說者釋也。也。見也。然者小。此字同部。小辭不受也。从受。辛。受。辛。宜。辭之也。也。有依字。と。互。混用。來れる。は。誤。お。め。其。說。段。注。小。委之。見。え。あ。己。は。と。韻。會。小。毛。今。人。以。辭。爲。辭。受。之。辭。以。辭。爲。文。辭。之。辭。揚。脩。傳。絕。妙。好。辭。是。也。循。用。既。久。今。不。廢。  
と。云。ひ。は。と。辭。通。作。辭。集。韻。攝。作。辭。俗。辭。亂。从。舌。作。辭。乱。其。蕪。類。有。如。此。者。と。云。る。を。も。思。ふ。べ。し。け。ん。言。語。を。  
聲。音。よ。己。起。依。去。や。素。小。て。其。五。十。聯。の。聲。音。小。各。く。自。然。に。  
意。何。れ。象。あ。り。形。何。己。其。は。人。の。世。に。經。る。事。お。ざ。繁。花。物。ふ。  
れ。を。見。依。物。聞。く。物。了。然。て。情。お。此。中。小。動。き。て。其。聲。種。く。  
小。發。る。然。る。は。物。有。れ。を。必。己。象。何。己。象。有。れ。を。必。己。目。小。映。  
依。目。小。映。れ。を。必。己。情。小。思。ふ。情。小。思。ふ。ば。必。己。聲。小。出。於。其。

聲也。必己其見依物の形象。小因て其形象亦依聲何己。此字  
音象と謂ふ。其音象此大要云む。加良理とせし所小響きて、加良  
理也。聞ゆる音あり。佐良理とせし所小響きて、加良  
良理とせし所觸れて、佐良理とせし物あり。多良理と  
志と依物を見せしは、舌上の多良理とせし所小響きて、多良  
良理と聞ゆる音あり。奴良理とせし物を見れを、舌面此奴  
とる物を見せし所よ、奴良理と聞ゆる音あり。比良理とせ  
や、聞ゆる音を、舐らば、輕の比良理とせし所小響きて、比良理  
良理とせし所小觸れて、年良理とせし物を見せし、唇重の年  
を以て、其大旨抑音象小かく、自然の定ま己有て、言と成る  
小。其言必己其見物字指象己て、嗟嘆せる小形を依其や  
つて其情の中、小動く己因依こと上此如し。毛詩罔風關雎  
序小詩者志之  
所之也。在心爲志。發言爲詩。情動於中而形於言。言之不足故  
嗟嘆之。嗟歎之不足故永歌之。永歌之不足。不知手之舞之。足

○古史本辭經二

○十二

之踏之也。情發於色。色成文。謂之音云。有是。即是。意。ば。予。あり。情。と。禮。記。比。禮。運。は。何。謂。人。情。喜。怒。哀。懼。愛。惡。欲。七。者。弗。學。而。能。と。有。正。情。實。と。熟。して。麻。古。登。と。云。ち。了。言。有。正。小。叶。ひ。且。字。良。也。も。古。く。呂。也。も。訓。を。き。字。あり。ち。了。言。有。正。後。小。語。あ。り。語。有。り。了。後。小。詞。あ。り。辭。の。り。是。在。れ。ち。聲。音。言。語。詞。辭。の。次。第。あ。り。然。る。小。其。言。語。詞。辭。お。本。意。を。盡。さ。是。了。於。て。譬。諭。あ。り。形。容。比。言。の。り。如。此。して。言。語。の。道。始。欠。了。調。へ。了。其。譬。諭。と。即。神。典。の。古。傳。は。狀。如。草。牙。ま。と。譬。用。幣。流。之。時。亦。ど。有。る。類。ひ。を。云。ひ。形。容。比。言。と。は。古。那。洲。多。陀。呂。曾。迹。畫。成。ま。と。玉。緒。母。由。良。迹。取。由。良。志。ま。と。湫。舟。之。毛。毛。曾。迹。呂。武。と。有。る。可。い。也。即。形。容。比。言。の。り。其。え。加。茂。翁。の。祝。詞。考。小。可。い。は。水。を。吞。む。音。か。り。水。を。吞。む。音。か。り。音。か。り。加。茂。翁。の。祝。吞。む。と。云。ひ。喫。物。の。音。か。り。加。茂。翁。の。祝。音。か。り。吞。む。と。云。ひ。俗。言。と。思。ふ。人。を。思。ふ。と。云。ひ。凡。て。物。比。鳴。音。小。雅。俗。お。し。や。云。れ。師。比。後。も。有。べ。る。生。ぜ。凡。て。物。比。鳴。音。小。雅。俗。お。し。や。云。れ。師。比。後。

釋も此説了。從られ。と。り。彼。音。色。考。小。凡。て。下。を。ト。も。じ。不。て。承。て。漢。語。小。何。然。何。乎。と。云。ふ。ぐ。ひ。此。詞。を。大。う。と。音。色。了。て。形。容。し。る。詞。あ。り。は。と。下。小。於。く。辭。の。レ。ケ。ン。ヤ。カ。ラ。カ。メ。ク。此。類。の。上。比。詞。も。亦。同。ぶ。く。皆。く。音。色。小。因。れ。る。言。う。と。云。小。多。く。は。然。も。非。然。也。音。色。小。因。て。言。語。の。出。來。依。よ。正。言。語。了。は。自。然。の。言。語。の。意。あ。る。を。や。が。て。其。言。語。の。義。を。以。て。物。事。を。譬。へ。象。と。依。事。の。意。あ。る。を。や。が。て。其。言。語。の。義。を。以。て。言。語。の。意。は。末。小。して。事。廣。し。譬。へ。ば。伎。良。志。須。く。志。か。と。云。ひ。音。色。比。意。小。て。象。り。と。る。道。を。知。る。志。を。知。る。志。か。と。云。ひ。然。る。言。お。り。如。不。ち。了。其。始。欠。一。物。一。事。指。象。と。了。了。起。れ。其。書。を。見。る。如。不。ち。了。其。始。欠。一。物。一。事。指。象。と。了。了。起。れ。依。言。の。譬。諭。ま。で。小。及。ぶ。趣。を。按。ふ。了。赤。縣。文。字。比。用。法。小。六。書。と。い。ふ。事。あ。依。が。中。比。形。聲。會。意。と。謂。ふ。了。略。相。類。と。る。趣。小。了。末。於。ひ。了。或。は。數。語。了。轉。用。し。了。或。は。佗。不。假。借。し。了。千。言。万。語。了。活。機。く。事。を。は。と。彼。六。書。比。指。事。象。形。轉。注。假。借。

を謂ふ了相似て。此不種く此義を爲さず。其謂ゆる六書を  
六日假借とある是あり。今世ある説文の諸本小指事者  
云く象形者云く形色者云く會意者云く轉注者云く假借  
者云く也云る文あり。後人の注文此入不て中も轉  
注の説此謬あり。右の注文也。符谷望之。後魏書此江式傳。此序  
文を引とる。右の注文也。此無き小徴して委あ論へ  
る。其説を用ふ。其は本編の諸章次。次く小釋行く隨  
小い。著死事小は有れど。此了少。其一例を述む。阿行  
篇此第一章れる阿加。天日此大空了懸。赫やく象を指  
た。阿加良也。阿加くも。嗟歎せし言此。阿加と約りて。  
彼日此義を爲し。う於其色の名小定は。其赤死象よ。形  
容して。阿加理と云流。明字此義ある。成始欠。其言形不種

種小活機也。是謂ゆる指事象形の趣也。其を彼注文  
識察。而見意。二二是也。象形者畫成其物。隨體詰諷。日月是也  
と云。如く。二二は上下此古文あり。詰諷を屈曲と云ふが  
如し。文意を文字小指事と云。其事ありて。物かた言の類  
を直小其事。此象を形に寫して。視るは。小其事。知を  
其象を察して。製字の意。成も見。上下此字の類。是あり。  
象形と云は。形何る物を。其體の隨了屈曲して。其物を畫  
成せる文字あり。日月此類。是あり。と各。その一例を示せる  
あり。本書小。二。高也。上。篆文。上。二。底也。下。篆文。下。有。て指事  
と稱し。日月此字の。下。日。實也。と有。て。其實せる象形也。  
古言を其言の上。小指事象形の分ち。神れ。ら。小。別。は。赤  
縣の古文を。其字此。上。指事象形。此分を。各。小。別。は。赤  
る。小。彼此。そ。此。趣。きの。相似。と。る。事。其。文字。の。原。を。我。が  
大神。此。傳。予。給。ひ。し。小。因。る。事。あり。其。由。は。赤。縣。太。古。傳。太。昊  
古易傳。ふ。ど。小。論。了。は。其。轉。注。假。借。小。相。似。と。依。由。は。上。件  
る。を。察。て。知。べ。し。は。了。其。轉。注。假。借。小。相。似。と。依。由。は。上。件  
此。阿。加。良。阿。加。く。り。起。了。彼。日。赤。此。義。と。成。れる。言。の。明



此義小轉れるは更なり。明まゝ阿伎阿久阿祁と機まで厭  
飽開字始欠。おち種く此轉用あ依が上る。はと反語の例あ  
て。其を阿加は。明く潔まを云言れる哉。人體の垢をも稱ふ  
は。章哉余志とも謂ふ。同じ類の反語あり。此等此類を假  
借此例小取むも違ふ事なり。彼注は轉注者建類一首同意  
字依色託事。令長是也と有れ。此二説とも了誤あり。其  
彼轉注説。六書とは。事を指示しある。上下の類を指事  
て。物形を象ゆ。日月此類を象形あり。此二を文と云ふ  
ま。其物の文小从ひて。名小呼ぶ。色の文を漆。江の  
類を形。色あり。二文を合せて。義を爲する。武信の類を會意  
あり。此二を字といふ。此文と字と。成使用ふる。小其本義を  
用ふる者あり。義を轉じて用ふる者あり。色を借用ふる者  
あり。本義を説文小釋せる。義はあり。義の轉れる者あり。譬へ  
て。令は發號也。と。何依が本義あり。て。法令依より轉じて。使  
令依。民を法令の如く。然ら令依より轉じて。使令依。然ら令依

總て令と云ひ。法令を吏長の民小命びる故。轉じて其命  
む。依吏を令といふ。縣令おど是あり。はと長久遠也とあ  
る。が本義小て。遠長の字。ゆるを轉じて。物の長短の字。なり  
。はと轉じて。長幼此字と。形し。はと凡人。了勝れ。る人  
長者。云ひ。ま。と轉じて。主領する者。を長といふ。此此如  
類を轉注と云ふ。はと色を借用ふる者。其字おき。小を  
て。其物の名と。同音れる。文字。何の文字。小も有れ。借用  
る。或假借せ。いふ。譬へ。之は出也。と訓じて。州の地。より出  
依あり。易は。鳥名あり。也。女。舍れる。を。音の。同。は。皆借  
て。語。辭と。似る。類れ。皇。國。小。西。土。此。文字。此。音。を。借。て。  
皇。國。語。を。書。く。を。假。字。と。云。ふ。全。扱。か。く。彼。此。合。せ。て。考。ふ。依  
是。小。同。じ。と。云。依。了。て。知。る。は。扱。か。く。彼。此。合。せ。て。考。ふ。依  
小。言語。此。本。は。情。その。中。小。動。ま。て。聲。小。形。を。れ。其。聲。小。音。と  
意。と。形。あり。て。調。子。依。こ。最。彰。る。故。今。我。の。五十。聯。の。聲  
此。義。を。釋。く。小。其。每。行。五。聲。の。起。れる。先。後。を。明。さ。て。は。本。章  
の。語。解。し。其。意。を。盡。し。難。き。事。ども。有。る。は。先。其。事。此。原。よ。て

攷ふ依り。既小云依如く。五母韻の定はる小。彼合口宇聲よ  
 正起り抄せば。其子ぬる加行以下北諸聲も。第三段久須都  
 奴布牟由于流よ正起る依こと。準へて知はし。然れど宇は  
 韻小在、ふ  
 年由、于流を生ぜしお正、俗の悉曇家を更ふり、契沖説了も、  
 阿、色を其趣よ、かくて其十行の中、小、良行を其聲假小も本  
 云、るは非あり、言北上り在こや無く。死む。如らし。所おど北類ふ依形容言。  
 は、語辭小北み使をれて。雅語小も俗語小め下の活機を  
 爲は事は。比類ふ物うら。悉曇よ謂ゆる。卷舌と聞ゆる聲  
 等おれむ。阿行と終始反對して。上九行の尾を都べき。自然  
 の勢ぬるよ也。既小も論牙依が如し。阿行五色の諸行小主  
 とり祖ぬ正始とる趣

は、上り云るを。此うもて来て。其必、かく有るき事の由を辨  
 ぶ。是く、良行の上九行字都て。其尾を司る趣を。次小釋く行  
 行北毎初小舉る。二十五。は天如此十行横列の次第を。聲音  
 言ども残見ても知はし。北自然り從ひ定えて。阿行良行北尊卑終始を依字。神典北  
 古傳小按ひ合はる小。是まと天と泉との象小符へ正。其を  
 天日北御國ま抄成して。次り泉都固定ま正。然して後小。天  
 ぞ泉との憑相小。宇都志國の事竟たる。趣あり。然れむ音韻  
 言語の道も抄北如く。阿良北二行ま、以齊ひて中八行の音  
 義北漸く。全く調ひ竟るむこと。推て知はし。然るも今  
 赤子北初  
 色を發る。よ、ウ、ア、イ、エ、オ、を更ふり、童子を成くも、アイウ  
 エ、オ、残推く。ワ、平、ウ、エ、ヲ、を云ひ、ラ、リ、ル、レ、ロ、を推く。マイ、ユ  
 エ、ヨ、と云ふ間も、音韻の道北未成ざる故小。片言のみ云、免  
 る残、阿良二行の色北、諦よ云はる、時り至りて、始えて其、



此色の重れる言を我が古言の素をゆ無れど加行以下の  
 加ひ錯れぬ其由を以て知おれぬ阿行篇の初章は二十  
 五言哉神典此古傳及び諸書形る古語ふ徴し攷了是を  
 知まじ其二十五言の譜かゝの如し  
 阿良 伊良 宇良 延良 於良  
 阿理 伊理 宇理 延理 於理  
 阿流 伊流 宇流 延流 於流  
 阿禮 伊禮 宇禮 延禮 於禮  
 阿呂 伊呂 宇呂 延呂 於呂

然る先思ふを起る諸行の  
 段字色を起る諸行の  
 潜めて此行素を起る所以  
 行の並びある意を  
 小斜り降るも共り阿  
 降るも阿呂を於呂  
 阿良を斜り於呂  
 十字形に貫通しう  
 定めて其合色北堅横  
 此章譜は第三段宇流  
 依る其最中位を

宇流。宇禮。宇呂。活々依る。宇良は阿と約して初段居る。  
 宇理を伊と約して二段居る。宇流を宇を締めて素は  
 は三段居る。宇禮は延と約して四段居る。宇呂は於  
 と約して五段居る。是を以て此行五聲北初義を潤字の  
 義を起れ。但し其段位を五母韻の次第に因循ふこと。  
 既論へ依る如し。潤字は説文水部。水曰潤。下。水。潤。色  
 音。潤。溼。潤也。又。沢也。滋也。也。云。正。浸。潤。不。意。有。其。義。別。れ  
 は。是。行。の。起。れ。る。初。哉。こ。そ。云。正。凡。木。每。色。種。く。其。義。別。れ  
 已。其。下。小。謂。は。て。如。此。也。故。て。潤。字。北。義。を。起。れ。る。阿。伊  
 宇。延。於。ふ。は。と。各。く。尔。良。行。の。五。聲。相。副。し。う。ば。阿。等。初。段。現  
 有。北。活。用。を。成。す。伊。を。二。段。苛。入。北。活。機。と。あり。宇。は。素。の。如

く潤はと裡の活用を爲し延て四段得此活機と成り於て  
五段卸織北活機を成る。され此行の第二義あり。然るふ此  
義阿良の二行小分れと也。如<sup>カ</sup>此云ふ由たは阿行の阿と  
入の義あり。宇と云ふ潤の義あり。延と云ふ得此義あり  
也。於と云ふ卸此義あり。はと良行の五色あり。有入ふどの  
意あるた。乃是義の分也。し故あり。其<sup>カ</sup>かくて是行五聲也。然  
て良行の下ふも謂ふを見る也。し。加<sup>カ</sup>くて是行五聲也。然  
起れ依由來哉。神典小稽ふ依り。天地未無也。し往古也。天  
高市北天真區ふ。其始免無く御座して造化の初發を成坐  
せる。天皇祖三柱神の産靈小質りて。大空ふは川。一物の生  
出ある依り起る。其は神代紀一書ふ天地初判一物在於虚中  
状貌難言と有依乃是よて。此争竟も天地と分也。し物北初

發也。天高市北天真區とは天皇祖神とちの神留坐に本  
依<sup>カ</sup>迎也。乃其域あり。季くは古史傳ふ云ふを。然依り状貌難  
下の那行の所ふ。因ありて其大旨哉云へ也。然依り状貌難  
言と有依也。其新く也現を出と依象の妙小奇也。一り名  
状し難く。う於白地言ふも難る。会易構合此貌也。し  
故り。か々傳あるふて。然る言ひ難也。是一物の天地と分依  
依状を次く小詔ひ出ある依ぞ阿行を始也。五十聯音此起原  
依る。其一。小名状し難也。大要云む。會易構合の象も。素  
と。或は明く。或は闇く。其漂へる趣も。潤く。旋く。言と  
聯く。滑く。奮く。聚く。動く。麗くと。あてぞ在る。依り状貌難言と  
ある古傳の意これ。其は此一物の虚中。小宇に流く。也。潤免  
死現はま出と依様を御目前に見行せる。其皇祖神等北御

情<sup>コト</sup>了<sup>シ</sup>然<sup>カ</sup>る物在<sup>リ</sup>と<sup>オモ</sup>所<sup>ホ</sup>思<sup>シ</sup>看<sup>ル</sup>せる隨<sup>フ</sup>了<sup>シ</sup>也<sup>ノ</sup>象<sup>ヲ</sup>を大<sup>ホ</sup>御<sup>コト</sup>言<sup>フ</sup>。詔<sup>シ</sup>  
ひ形<sup>ナラ</sup>は<sup>シ</sup>給<sup>フ</sup>子<sup>ヲ</sup>依<sup>グ</sup>初<sup>ハ</sup>發<sup>メ</sup>ふて。は<sup>シ</sup>此<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>聲<sup>ヲ</sup>元<sup>モト</sup>基<sup>ニ</sup>とは成<sup>レ</sup>  
了<sup>シ</sup>。凡<sup>テ</sup>神<sup>典</sup>有<sup>ル</sup>世<sup>ノ</sup>初<sup>ハ</sup>免<sup>レ</sup>古<sup>ノ</sup>傳<sup>ト</sup>也<sup>。當<sup>シ</sup>昔<sup>カ</sup>直<sup>シ</sup>了<sup>シ</sup>其<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>狀<sup>ヲ</sup>を。見<sup>ル</sup>  
を<sup>モ</sup>て見<sup>ル</sup>に<sup>シ</sup>有<sup>ル</sup>語<sup>ヲ</sup>當<sup>ラ</sup>昔<sup>カ</sup>其<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>地<sup>ノ</sup>初<sup>ハ</sup>判<sup>ス</sup>を。一<sup>ノ</sup>物<sup>ヲ</sup>虚<sup>中</sup>其<sup>ノ</sup>意<sup>ヲ</sup>  
生<sup>レ</sup>て云<sup>フ</sup>と云<sup>フ</sup>語<sup>ヲ</sup>當<sup>ラ</sup>昔<sup>カ</sup>其<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>地<sup>ノ</sup>初<sup>ハ</sup>判<sup>ス</sup>を。一<sup>ノ</sup>物<sup>ヲ</sup>虚<sup>中</sup>其<sup>ノ</sup>意<sup>ヲ</sup>  
神<sup>等</sup>の<sup>行</sup>を<sup>誰</sup>り<sup>有</sup>ら<sup>む</sup>其<sup>ノ</sup>是<sup>レ</sup>阿<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>み<sup>非</sup>交<sup>リ</sup>加<sup>行</sup>以<sup>テ</sup>  
下<sup>ノ</sup>諸<sup>行</sup>を<sup>殊</sup>り<sup>其</sup>旨<sup>ヲ</sup>い<sup>ち</sup>著<sup>ク</sup>堅<sup>横</sup>此<sup>ノ</sup>次<sup>第</sup>ま<sup>て</sup>も<sup>神</sup>典<sup>此</sup>  
古<sup>ノ</sup>傳<sup>ト</sup>幽<sup>契</sup>を<sup>依</sup>こ<sup>と</sup>実<sup>ヲ</sup>奇<sup>聖</sup>お<sup>り</sup>と<sup>も</sup>微<sup>妙</sup>お<sup>り</sup>と<sup>も</sup>言<sup>フ</sup>  
小<sup>語</sup>縁<sup>ト</sup>此<sup>ノ</sup>事<sup>ヲ</sup>非<sup>交</sup>う<sup>し</sup>然<sup>ル</sup>は<sup>シ</sup>其<sup>ノ</sup>大<sup>御</sup>言<sup>詔</sup>ま<sup>せ</sup>る<sup>初</sup>ま<sup>は</sup>  
阿<sup>ノ</sup>聲<sup>ノ</sup>定<sup>ま</sup>依<sup>リ</sup>上<sup>ノ</sup>件<sup>ト</sup>此<sup>ノ</sup>宇<sup>流</sup>ノ<sup>合</sup>口<sup>言</sup>形<sup>ヲ</sup>る<sup>。宇</sup>良<sup>。宇</sup>理<sup>。宇</sup>  
流<sup>。宇</sup>礼<sup>。宇</sup>呂<sup>。宇</sup>活<sup>ル</sup>依<sup>リ</sup>其<sup>ノ</sup>宇<sup>良</sup>を<sup>良</sup>聲<sup>ト</sup>此<sup>ノ</sup>副<sup>レ</sup>る<sup>故</sup>。開<sup>口</sup>音<sup>ト</sup>  
此<sup>ノ</sup>阿<sup>ノ</sup>約<sup>ト</sup>。彼<sup>ノ</sup>物<sup>ヲ</sup>指<sup>シ</sup>て。阿<sup>ノ</sup>良<sup>ク</sup>也<sup>。詔</sup>子<sup>ヲ</sup>依<sup>グ</sup>。竟<sup>シ</sup>阿<sup>ノ</sup>良<sup>。</sup></sup>

阿<sup>ノ</sup>理<sup>。阿</sup>流<sup>。阿</sup>礼<sup>。阿</sup>呂<sup>と</sup>活<sup>ク</sup>言<sup>ト</sup>成<sup>ル</sup>。阿<sup>ノ</sup>良<sup>ハ</sup>現<sup>ハ</sup>る<sup>在</sup>ふて。  
彼<sup>ノ</sup>物<sup>ノ</sup>現<sup>ハ</sup>る<sup>在</sup>る<sup>。今</sup>更<sup>ニ</sup>此<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>驚<sup>ル</sup>也<sup>。所</sup>思<sup>シ</sup>て。詔<sup>シ</sup>ひ出<sup>ス</sup>  
る<sup>。御</sup>言<sup>ハ</sup>れる<sup>。一</sup>物<sup>ヲ</sup>在<sup>ル</sup>於<sup>テ</sup>虚<sup>中</sup>也<sup>。何</sup>依<sup>リ</sup>在<sup>ル</sup>字<sup>也</sup>も<sup>て</sup>悟<sup>ベ</sup>し。  
其<sup>レ</sup>也<sup>。此</sup>古<sup>ノ</sup>傳<sup>ノ</sup>も<sup>と</sup>是<sup>レ</sup>大<sup>ノ</sup>神<sup>等</sup>を<sup>也</sup>次<sup>ニ</sup>。小<sup>ノ</sup>語<sup>也</sup>。繼<sup>リ</sup>來<sup>ル</sup>傳<sup>ハ</sup>れ  
依<sup>リ</sup>こ<sup>の</sup>上<sup>ノ</sup>論<sup>ハ</sup>如<sup>ク</sup>也<sup>。阿</sup>ノ<sup>禮</sup>也<sup>。世</sup>言<sup>ハ</sup>る<sup>。月</sup>の<sup>少</sup>瞻<sup>也</sup>。神<sup>ノ</sup>世  
も<sup>と</sup>今<sup>も</sup>同<sup>シ</sup>趣<sup>ト</sup>也<sup>。阿</sup>ノ<sup>禮</sup>也<sup>。世</sup>言<sup>ハ</sup>る<sup>。月</sup>の<sup>少</sup>瞻<sup>也</sup>。神<sup>ノ</sup>世  
ぞ<sup>も</sup>然<sup>レ</sup>て<sup>一</sup>物<sup>ヲ</sup>也<sup>。皇</sup>祖<sup>ノ</sup>神<sup>也</sup>。驚<sup>ル</sup>也<sup>。所</sup>思<sup>シ</sup>て。詔<sup>シ</sup>ひ出<sup>ス</sup>  
然<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>行<sup>ハ</sup>て<sup>一</sup>物<sup>ヲ</sup>也<sup>。皇</sup>祖<sup>ノ</sup>神<sup>也</sup>。驚<sup>ル</sup>也<sup>。所</sup>思<sup>シ</sup>て。詔<sup>シ</sup>ひ出<sup>ス</sup>  
の<sup>不</sup>測<sup>也</sup>。御<sup>ノ</sup>自<sup>レ</sup>所<sup>ノ</sup>知<sup>ル</sup>也<sup>。阿</sup>ノ<sup>禮</sup>也<sup>。世</sup>言<sup>ハ</sup>る<sup>。月</sup>の<sup>少</sup>瞻<sup>也</sup>。神<sup>ノ</sup>世  
道<sup>ノ</sup>理<sup>也</sup>。御<sup>ノ</sup>自<sup>レ</sup>所<sup>ノ</sup>知<sup>ル</sup>也<sup>。阿</sup>ノ<sup>禮</sup>也<sup>。世</sup>言<sup>ハ</sup>る<sup>。月</sup>の<sup>少</sup>瞻<sup>也</sup>。神<sup>ノ</sup>世  
此<sup>ノ</sup>言<sup>ハ</sup>る<sup>。主</sup>音<sup>ハ</sup>も<sup>と</sup>ば<sup>動</sup>也<sup>。無</sup>く<sup>。良</sup>ハ<sup>既</sup>論<sup>ヘ</sup>る<sup>如</sup>く<sup>。形</sup>容<sup>ハ</sup>  
副<sup>レ</sup>也<sup>。活</sup>用<sup>ハ</sup>聲<sup>也</sup>。故<sup>ニ</sup>疾<sup>ク</sup>去<sup>リ</sup>て<sup>其</sup>韻<sup>ノ</sup>み<sup>殘</sup>也<sup>。阿</sup>ノ<sup>禮</sup>也<sup>。世</sup>言<sup>ハ</sup>る<sup>。月</sup>の<sup>少</sup>瞻<sup>也</sup>。神<sup>ノ</sup>世

○古史本辭經二  
○二十

れるが。阿良とぬ成りて。然て何事ふはま情に深く感け思  
 ふ故ある時了。阿良も阿一も打出る。謂ゆる嘆聲と為  
 ます。師云。奈宜幾を長息といふ事あり。そ我奈宜久やも活  
 長氣所念鴨形と。詠るこや數知ら。又漢文も。長大息を  
 ども云。凡て情の感。或る事。不。慙。し。き。を。も。憐。れ。事。も。樂  
 し。死。字。も。皆。い。ふ。言。形。ゆ。然。る。小。後。了。は。憂。も。く。悲。き。事。小。の  
 み。云。を。深。く。感。受。る。情。の。一。を。せ。り。分。て。云。あり。字。唇。不。歎。吟  
 也。とも。大。息。也。や。も。注。し。常。小。歎。息。とい。ふ。此。方。此。奈。宜。久。不  
 悲。支。事。此。み。ふ。ち。て。此。阿。一。て。ふ。聲。此。去。也。皇。典。小。所。見。と。依  
 是。限。ら。然。る。也。は。古。事。記。神。武。天。皇。段。了。已。尔。兄。宇。迦。志。字。伐。取。は。せ。る。所。此。  
 大。御。歌。の。末。尔。疊。引。志。夜。胡。志。夜。此。者。伊。基。能。布。曾。此。五。字  
 阿。引。志。夜。胡。志。夜。此。者。朝。咲。者。也。や。有。る。阿。一。是。あり。是。あり。

不。皇。軍。士。北。歌。と。志。阿。一。然。る。也。本。注。尔。音。引。と。有。依。也。  
 時。夜。場。伊。基。儂。而。毛。と。あり。然。る。也。本。注。尔。音。引。と。有。依。也。  
 加。行。以。下。北。聲。の。加。く。佐。く。れ。ど。北。類。亦。依。正。二。聲。残。疊。依  
 云。ふ。言。と。ハ。別。小。して。阿。字。單。小。長。く。引。と。る。音。形。る。由。北。注  
 亦。れ。筋。れ。り。記。傳。尔。私。記。小。阿。一。我。咲。也。と。注。せ。り。誠。不。今  
 此。者。朝。咲。也。世。北。人。も。咲。色。ハ。阿。一。我。咲。也。と。注。せ。り。誠。不。今  
 有。る。不。據。也。見。え。書。紀。了。今。來。目。部。歌。而。後。大。西。是。其。縁。也。  
 嘆。色。れ。る。由。を。云。さ。る。委。ら。矣。此。時。の。御。歌。北。全。也。朝。咲  
 北。愚。了。拙。き。由。を。朝。咲。ま。せ。る。御。言。形。ゆ。故。了。文。子。此。者。朝。咲  
 者。也。と。云。る。不。上。北。御。句。小。疊。く。志。夜。胡。志。夜。と。依。も。共  
 不。今。世。子。エ。一。愚。あり。御。句。小。疊。く。志。夜。胡。志。夜。と。依。も。共  
 通。詞。を。こ。然。れ。む。此。も。赤。縣。籍。と。を。尔。嗚。呼。於。乎。嗚。呼。於。戲。亦  
 ど。有。依。文。字。残。舊。く。阿。一。也。訓。る。乃。是。あり。其。源。語。若。菜。上  
 小。耳。も。鬱。悒。の。ゆ。け。き。バ。阿。一。也。傾。支。居。と。已。と。云。依。也。老。人

の状<sup>サ</sup>不<sup>テ</sup>。今世<sup>ヲ</sup>。あ<sup>ク</sup>悲<sup>シ</sup>。何<sup>ク</sup>嬉<sup>シ</sup>。何<sup>ク</sup>常<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup>長息<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>詞<sup>也</sup>。  
也。相同<sup>シ</sup>支<sup>ヲ</sup>を按<sup>ヒ</sup>合<sup>セ</sup>て知<sup>ル</sup>。河<sup>ノ</sup>北<sup>ノ</sup>景<sup>ノ</sup>禎<sup>ノ</sup>助<sup>ノ</sup>辭<sup>ノ</sup>類<sup>ノ</sup>を。今<sup>ノ</sup>奉<sup>ル</sup>。  
て。亦<sup>モ</sup>皆<sup>テ</sup>一<sup>ノ</sup>音<sup>ヲ</sup>小<sup>シ</sup>して。嘆<sup>キ</sup>北<sup>ノ</sup>辭<sup>ヲ</sup>あり。嘆<sup>キ</sup>善<sup>キ</sup>事<sup>ヲ</sup>小<sup>シ</sup>も。惡<sup>キ</sup>事<sup>ヲ</sup>。  
よ<sup>モ</sup>嘆<sup>キ</sup>在<sup>リ</sup>る。あ<sup>レ</sup>バ。音<sup>ヲ</sup>を摸<sup>シ</sup>し。ある。近<sup>ク</sup>て。此<sup>ノ</sup>等<sup>ノ</sup>北<sup>ノ</sup>文<sup>ノ</sup>字<sup>ヲ</sup>。そ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>。  
字<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>。そ<sup>レ</sup>因<sup>リ</sup>ら。幽<sup>ニ</sup>事<sup>ヲ</sup>。然<sup>レ</sup>れ。元<sup>ノ</sup>を。吉<sup>ニ</sup>凶<sup>ニ</sup>善<sup>ニ</sup>惡<sup>ニ</sup>を。別<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>事<sup>ヲ</sup>。  
此<sup>ノ</sup>支<sup>ノ</sup>。若<sup>シ</sup>あ<sup>レ</sup>を。書<sup>キ</sup>ふ。と。已<sup>テ</sup>。分<sup>リ</sup>て。依<sup>ル</sup>も。有<sup>リ</sup>。こ<sup>ノ</sup>を。韻<sup>ニ</sup>會<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>辨<sup>シ</sup>。  
る。如<sup>ク</sup>。云<sup>フ</sup>。谷<sup>ノ</sup>川<sup>ノ</sup>北<sup>ノ</sup>和<sup>ノ</sup>訓<sup>ノ</sup>。聚<sup>ル</sup>。あ<sup>リ</sup>。北<sup>ノ</sup>。ち<sup>テ</sup>。此<sup>ノ</sup>阿<sup>ノ</sup>。遂<sup>ニ</sup>單<sup>ニ</sup>。  
所<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>も。種<sup>々</sup>。北<sup>ノ</sup>説<sup>ヲ</sup>。あ<sup>リ</sup>。合<sup>セ</sup>考<sup>フ</sup>。不<sup>レ</sup>。北<sup>ノ</sup>。ち<sup>テ</sup>。此<sup>ノ</sup>阿<sup>ノ</sup>。遂<sup>ニ</sup>單<sup>ニ</sup>。  
聲<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>阿<sup>ノ</sup>。調<sup>ヒ</sup>て。應<sup>ズ</sup>聲<sup>ト</sup>も。成<sup>ル</sup>。其<sup>ノ</sup>禁<sup>ニ</sup>祕<sup>ニ</sup>御<sup>ノ</sup>抄<sup>ニ</sup>。恒<sup>ニ</sup>例<sup>ニ</sup>。每<sup>レ</sup>。  
月<sup>ノ</sup>次<sup>ニ</sup>第<sup>ニ</sup>條<sup>ニ</sup>。女<sup>ノ</sup>宦<sup>ノ</sup>申<sup>ス</sup>。御<sup>ノ</sup>手<sup>ノ</sup>水<sup>ノ</sup>。參<sup>ラ</sup>せ。候<sup>ハ</sup>む。女<sup>ノ</sup>房<sup>ノ</sup>。あ<sup>ト</sup>い<sup>フ</sup>。女<sup>ノ</sup>。  
宦<sup>ノ</sup>。御<sup>ノ</sup>楊<sup>ノ</sup>枝<sup>ノ</sup>。二<sup>ノ</sup>雙<sup>ノ</sup>指<sup>ノ</sup>。御<sup>ノ</sup>簾<sup>ノ</sup>。は<sup>ウ</sup>。已<sup>テ</sup>。出<sup>シ</sup>。參<sup>ラ</sup>せ。候<sup>ハ</sup>む。と。云<sup>フ</sup>。は<sup>ウ</sup>。  
女<sup>ノ</sup>房<sup>ノ</sup>。何<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>。や。あ<sup>レ</sup>。依<sup>ル</sup>。是<sup>レ</sup>。あ<sup>リ</sup>。水<sup>ノ</sup>。參<sup>ラ</sup>せ。日<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>。行<sup>キ</sup>事<sup>ヲ</sup>。小<sup>シ</sup>。女<sup>ノ</sup>宦<sup>ノ</sup>。御<sup>ノ</sup>手<sup>ノ</sup>。  
房<sup>ノ</sup>。あ<sup>ト</sup>い<sup>フ</sup>。女<sup>ノ</sup>宦<sup>ノ</sup>。御<sup>ノ</sup>楊<sup>ノ</sup>枝<sup>ノ</sup>。二<sup>ノ</sup>を。み<sup>テ</sup>。次<sup>ニ</sup>。指<sup>シ</sup>。は<sup>ム</sup>。と。二<sup>ノ</sup>。色<sup>ノ</sup>申<sup>ス</sup>。女<sup>ノ</sup>。  
ら<sup>セ</sup>。已<sup>テ</sup>。二<sup>ノ</sup>。色<sup>ノ</sup>申<sup>ス</sup>。女<sup>ノ</sup>房<sup>ノ</sup>。あ<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>。や。何<sup>レ</sup>。諸<sup>ノ</sup>越<sup>ル</sup>。北<sup>ノ</sup>字<sup>ノ</sup>。書<sup>キ</sup>。と。も。不<sup>レ</sup>。

阿<sup>ノ</sup>。慢<sup>ル</sup>。應<sup>ズ</sup>之<sup>ノ</sup>。色<sup>ノ</sup>と。あり。然<sup>レ</sup>れ。と。舊<sup>ク</sup>。單<sup>ニ</sup>聲<sup>ニ</sup>。小<sup>シ</sup>。て。め。嘆<sup>キ</sup>支<sup>ノ</sup>。北<sup>ノ</sup>聲<sup>ノ</sup>。形<sup>ノ</sup>。  
和<sup>ノ</sup>漢<sup>ノ</sup>符<sup>ノ</sup>合<sup>ノ</sup>の。詞<sup>ヲ</sup>。あり。然<sup>レ</sup>れ。と。舊<sup>ク</sup>。單<sup>ニ</sup>聲<sup>ニ</sup>。小<sup>シ</sup>。て。め。嘆<sup>キ</sup>支<sup>ノ</sup>。北<sup>ノ</sup>聲<sup>ノ</sup>。形<sup>ノ</sup>。  
已<sup>テ</sup>。事<sup>ヲ</sup>。神<sup>ノ</sup>武<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>皇<sup>ノ</sup>紀<sup>ヲ</sup>。嗟<sup>フ</sup>乎<sup>ト</sup>。見<sup>エ</sup>。万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>。一<sup>ノ</sup>卷<sup>ノ</sup>。小<sup>シ</sup>。嗚<sup>キ</sup>呼<sup>キ</sup>兒<sup>ノ</sup>。乃<sup>チ</sup>。  
浦<sup>ノ</sup>と。書<sup>キ</sup>。此<sup>ノ</sup>。新<sup>ニ</sup>撰<sup>ル</sup>字<sup>ノ</sup>鏡<sup>ヲ</sup>。嗟<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>。一<sup>ノ</sup>字<sup>ヲ</sup>を。阿<sup>ノ</sup>を。訓<sup>ス</sup>。書<sup>キ</sup>。紀<sup>ヲ</sup>。ま<sup>ニ</sup>。靈<sup>ノ</sup>異<sup>ノ</sup>。  
記<sup>ス</sup>。噫<sup>キ</sup>字<sup>ノ</sup>訓<sup>ヲ</sup>。み。宇<sup>ノ</sup>治<sup>ノ</sup>拾<sup>リ</sup>遺<sup>ヲ</sup>。五<sup>ノ</sup>。仲<sup>ノ</sup>胤<sup>ノ</sup>僧<sup>ノ</sup>説<sup>ク</sup>法<sup>ヲ</sup>。北<sup>ノ</sup>條<sup>ノ</sup>。不<sup>レ</sup>。我<sup>ノ</sup>。こ<sup>ノ</sup>ら。集<sup>メ</sup>。  
と。依<sup>ル</sup>。大<sup>ノ</sup>衆<sup>ノ</sup>。異<sup>ニ</sup>口<sup>ノ</sup>同<sup>ニ</sup>音<sup>ノ</sup>。あ<sup>リ</sup>。支<sup>ヲ</sup>。て。扇<sup>ヲ</sup>。開<sup>キ</sup>。支<sup>ヲ</sup>。使<sup>ヒ</sup>。あ<sup>リ</sup>。や。有<sup>リ</sup>。  
阿<sup>ノ</sup>米<sup>ノ</sup>伎<sup>ノ</sup>も。是<sup>レ</sup>。あ<sup>リ</sup>。詞<sup>ヲ</sup>。あ<sup>リ</sup>。大<sup>ノ</sup>衆<sup>ノ</sup>。之<sup>ノ</sup>。あ<sup>リ</sup>。意<sup>ヲ</sup>。め<sup>キ</sup>。は。其<sup>ノ</sup>。さ。は。を。云<sup>フ</sup>。  
る。趣<sup>ヲ</sup>。あ<sup>リ</sup>。太<sup>ノ</sup>平<sup>ノ</sup>記<sup>ヲ</sup>。三<sup>ノ</sup>井<sup>ノ</sup>寺<sup>ノ</sup>合<sup>ノ</sup>戰<sup>ノ</sup>の。條<sup>ノ</sup>。不<sup>レ</sup>。衆<sup>ノ</sup>。徒<sup>ノ</sup>。ら。本<sup>ノ</sup>尊<sup>ノ</sup>彌<sup>ノ</sup>勒<sup>ノ</sup>佛<sup>ノ</sup>の。  
首<sup>ヲ</sup>。ば。う。り。を。取<sup>リ</sup>。藪<sup>ニ</sup>。隠<sup>ル</sup>。置<sup>ク</sup>。事<sup>ヲ</sup>。狂<sup>ニ</sup>歌<sup>ヲ</sup>。せ<sup>ル</sup>。詞<sup>ノ</sup>。書<sup>キ</sup>。北<sup>ノ</sup>文<sup>ノ</sup>。  
不<sup>レ</sup>。故<sup>ニ</sup>も。れ<sup>ク</sup>。鏝<sup>ノ</sup>字<sup>ヲ</sup>。以<sup>テ</sup>。我<sup>ノ</sup>。首<sup>ヲ</sup>。を。切<sup>リ</sup>。間<sup>ヲ</sup>。阿<sup>ノ</sup>。逸<sup>ノ</sup>。多<sup>ク</sup>。と。云<sup>フ</sup>。子<sup>ノ</sup>。と。  
め。叶<sup>ハ</sup>。是<sup>レ</sup>。と。有<sup>リ</sup>。阿<sup>ノ</sup>。逸<sup>ノ</sup>。多<sup>ク</sup>。を。切<sup>リ</sup>。間<sup>ヲ</sup>。阿<sup>ノ</sup>。逸<sup>ノ</sup>。多<sup>ク</sup>。と。云<sup>フ</sup>。子<sup>ノ</sup>。と。  
掛<sup>ク</sup>。と。依<sup>ル</sup>。不<sup>レ</sup>。今<sup>ノ</sup>。ち<sup>テ</sup>。阿<sup>ノ</sup>。と。い<sup>フ</sup>。阿<sup>ノ</sup>。と。打<sup>チ</sup>。出<sup>シ</sup>。依<sup>ル</sup>。こ<sup>ノ</sup>を。見<sup>ル</sup>。依<sup>ル</sup>。物<sup>ノ</sup>。  
も。云<sup>フ</sup>。不<sup>レ</sup>。言<sup>フ</sup>。あ<sup>リ</sup>。今<sup>ノ</sup>。ち<sup>テ</sup>。阿<sup>ノ</sup>。と。い<sup>フ</sup>。阿<sup>ノ</sup>。と。打<sup>チ</sup>。出<sup>シ</sup>。依<sup>ル</sup>。こ<sup>ノ</sup>を。見<sup>ル</sup>。依<sup>ル</sup>。物<sup>ノ</sup>。  
あり。聞<sup>ク</sup>。物<sup>ノ</sup>。何<sup>レ</sup>。已<sup>テ</sup>。其<sup>ノ</sup>。情<sup>ノ</sup>。中<sup>ノ</sup>。不<sup>レ</sup>。感<sup>ズ</sup>。支<sup>ヲ</sup>。其<sup>ノ</sup>。を。指<sup>シ</sup>。嘆<sup>キ</sup>。く。と。り。發<sup>ス</sup>。



聲形る故了。自然了。現在北義あり。亦也北指云ふ方より。遂  
了彼字北義を成せり。本篇の阿良とゆ。阿和了至依九段北  
阿みあ此義小漏る事形し。其字書ども亦彼を此を反  
対せる字不て。佗を指し人字  
は。時字指し事をし。物茲指し辭あれば。然るを世  
北語譯家あど。多く此義字知ら。徒謂ゆる。發語と北  
心得。あめる。寂も拙。支事不。彼。和訓。果。小。さ。牙。あ。は。凡  
そ。色。音。北。基。為。し。根。ざ。の。所。あ。れ。て。諸。の。發。語。了。あ。北。響。を。含  
免。り。と。て。梵。語。漢。說。何。く。と。引。出。て。說。を。作。れ。と。梵。漢。は  
と。し。然。も。有。ら。ば。有。れ。皇。國。北。古。言。不。然。無。用。形。の。發。語。北  
阿。色。を。一。お。お。無。支。物。字。や。佗。し。其。は。是。阿。聲。小。上。件。北。譜。の  
語。釋。家。の。說。等。も。准。芥。て。知。る。也。其。は。是。阿。聲。小。上。件。北。譜。の  
如く。良行北五聲相副了。阿良阿理阿流阿禮阿呂也活支  
了。新有荒彼主れど北祖言形るを更あり。此も現より起り  
理阿流阿礼阿良羊と活くを更あり。新荒字阿良と訓く。彼  
吾生伐阿礼ととみ主を阿呂自と訓むも在を同訓の活機

お依等字謂ふ委く加行の从ふを彼日赤明飽開彼所佐行  
は本篇を見るを委く加行の从ふを彼日赤明飽開彼所佐行  
の從ふは朝葦涸汗遊多行北从ふを當味厚充迹那行北從  
ふを孔兄主姉彼波行の从ふは淡遇相響痴麻行北從ふを  
餘網編雨天夜行北从ふを文肖歩和行北從ふを沫藍青是  
等北阿みれ彼の義形る也以て知る。但し此も文北繁  
かく四五言抄し出せれど亦此等北言をり。轉用假借し  
出た依言は數知ら多。首小阿も。北言をり。轉用假借し  
流。色。の。末。を。り。は。別。義。の。如。く。聞。也。有。無。不。非。祇。と。其。原  
の。因。り。不。釈。く。を。俟。登。し。扱。は。と。此。不。拳。さ。る。諸。言。北。中。不。主  
痲。あ。ど。北。類。ひ。必。遊。を。北。類。ひ。三。言。北。語。を。出。せ。依。も。誦。ウ  
て。出。せ。也。は。主。遊。を。北。類。ひ。三。言。北。語。を。出。せ。依。も。誦。ウ  
も。人。必。有。登。し。然。れ。ど。三。言。北。語。の。末。れ。る。字。多。く。活。用  
詞。あ。れ。ど。實。尔。を。二。言。北。語。を。り。故。三。言。北。語。を。り。伊。北  
も。憚。ら。交。出。せ。り。下。北。件。も。去。れ。不。做。ふ。也。○はて伊北

音義の定はる不。上件此合口言ぬる宇流の。宇理也活れ依  
 ぐ。理聲此副也し故不。開口志て伊此純聲不調子ぬ。抑伊也。  
 彼中府ぬる宇此元氣舌上字豎進み出依聲ふて。素と也。  
 自然了氣の義あり。古語不氣を伊也のみ云依也。神代紀上。  
 氣噴此本注不。伊浮岐也。有也。此字古事記了。氣吹と書也。大  
 祓詞不。氣吹戸主神と有依を。大同本記不。伊吹戸主也。有  
 尔て知也。此餘も氣息の字を。伊と此云。例數ふる不  
 る也。と云。是非あり。伊伎也。氣不。加行此。伊伎の伎字省る  
 伊久。伊祁。伊加牟と活く言ふて。却て未ぬる物字や。はて其  
 氣進ぬる方々ぬ。は以應聲と為れぬ。其を赤縣籍の舊訓不  
 唯字也。一也。訓る是あり。此也。早く和訓栞不も。唯字をい  
 い。を訓る也。倭語の答辭あり。字

音此響不也。非也。曲礼不。先生召。諾唯而起。とも見元。都て伊  
 文選注了。唯く謙應也。有也。と云。るは然る事ぬ。伊  
 多。氣進む義の聲ぬる故了。一通ふては。徒何とぬ。支發語此  
 如く聞ぬるぬ。深く其言也。味ふま。悉く氣進め依意あり。  
 和訓栞不。い。を發語の詞不。多く云。牙り。爾雅不。伊維也。注了。  
 發語。辭と見元。と。り。悉曇ふて。も。伊。字。不。根本。此。義。あり。神代  
 紀の歌。子。以。和。多。羅。素。万。葉。集。不。伊。縁。立。之。射。立。せ。る。伊。隱。る。  
 伊。積。依。ぬ。也。此。類。ひ。挙。て。數。ふ。ぬ。ら。交。せ。云。牙。れ。ど。縱。發。語。  
 ぬ。ら。む。ぬ。も。氣。此。義。了。て。梵。漢。其。也。此。伊。聲。不。上。件。此。譜。の。如  
 の發語の類ひ不。は。非。也。あり。む。其。也。此。伊。聲。不。上。件。此。譜。の。如  
 く。良。行。此。五。聲。相。副。子。バ。伊。良。伊。理。伊。流。伊。禮。伊。呂。を。活。死。て。  
 苛。入。色。ぬ。ど。の。祖。言。ぬ。る。は。更。あり。此。身。苛。を。り。起。て。入。也。  
 色。も。乃。同。語。ぬ。る。由。也。郎。子。郎。女。あ。ど。北。伊。良。入。彦。入。姫。ぬ。ど  
 北。伊。理。色。妹。色。兄。あ。ど。北。伊。呂。こ。ぬ。同。じ。語。ぬ。る。由。の。師。説。不  
 て。明。あり。鐫。字。伊。流。と。訓。む。も。同。言。ぬ。る。が。射。熬。ぬ。ど。を。訓。む  
 不。夜。行。の。以。流。あり。其。を。音。此。成。壯。ふ。を。り。て。差。別。あり。を。訓。む

既小喉音三行北辨の所り述る如く小て此行北伊を成る  
る哉夜行の以て壯あり次尔挙る諸言も各く此差別あり  
牙合せて辨ふるに加行北從ふを何活幾池息佐行北從ふ  
は率石急多行の從ふに至市德愛那行北從ふを否寢波行  
の從ふを岩家庵麻行の從ふを今芋夜行北從ふを辭痊和  
行北從ふは言れし此等北伊みれ氣北義なる哉以て知る  
るに本是等北言をり轉用假借し出たる諸言は更なり  
他言も切て伊色と為れるを自然り伊色の義  
字生せり其を本篇ふ次○はて字は既小云如く此行五聲  
此元音れまバ乃諸音北本祖なるが其音小潤諾得の三義  
あり其をほげ宇流の二聲素と合口音よして其音象を  
惟ふり彼一物北生出と始然潤くや在る様小想ひ合

され口内自然り津液字生じて純潤多依趣あり是ぞ此言  
る潤字北熟く叶ふ所以北本れり五十音五段の中小第三  
段の音をみあ合口音あり  
る故り口を開てハ都り云こや能はざる色等れり中ふも  
宇流の二音は其首尾に在りかく相結をまバ殊り然り  
はと口舌の乾燥せる時取ども出さばはちて然合口して津  
色取れり人々自から呼試みて知る様ははちて然合口して津  
液字畜ふるを起る音れる故りはと自然り心尔諾ひ裡  
よ受得る義あり是を以て用言北祖聲と成りや於承諾の  
聲やハ爲れり其を應聲よ宇と云ひ得字或宇流と訓むは  
更あり万葉六卷ふ諾已曾十二り諾名諾名十六尔否も諾  
も欲去依儘りれど見えて諾を宇小閉北副あるれり  
日記の文よ入告よ來依も何事とめ覚えぬやうせて止  
と見え源信明集尔今日此うち否やも諾とも云ひ果を

人あ北見れる事あせらまそせも見えとゆ山岡妙阿が名  
物考ふ點頭まうれたくと訓るめうと請うふ意あり俗  
ふ心得と依事戎むうんせ云ふも此詞取ゆと云る然る  
言取ゆ本編阿行篇の第五章宇閑此所云ふを俟るし  
はと右北宇せ云牙は應聲戎牟とも云ひ支其支宇治拾遺  
五實子非ざ依人實子此由れる條了思ひ計らひて沙汰  
志やませ云へむと答了て立ぬまといせ老立と依者ぞ  
かしと云牙はむと云れど有る是あり部内侍三小式  
言定頼卿の通牙る事此條了四と名五色ばり行もやら  
で讀ありけ依時うせ云て後ざはれと持反ありれと  
見え源語枕草子取どみ打う先死と云詞あるも共同じ  
宇ふれど諾北義ふた非交例の云せ中ふ畜と依色の出る  
ふて世言ふうんと力を入れてれど云ふ宇ふて呻吟北義  
あり佗説了此等此う戎肅交了同じせ云ひ或た死死  
同じせも云牙應聲れる宇戎牟とせ云ふえ諾宇辨字むる  
れど皆叶は交

鰻宇那岐をむあ支馬宇麻多むま猪宇自那を牟自那とい  
ふ類ふて此等北言これ陋言尔有れと諦し死古語ふて  
俗言よ非ざ依れり此陋言と俗言との差別を既了五十  
る言ども皆あけて此字聲尔上件北譜の如く良行北五聲  
まみ働ふ登し  
相副牙バ宇良宇理宇流宇禮宇呂せ活支て裡潤得憂空れ  
ど北祖言取るハ更あり此は潤裡より起りて得也得る得  
依得れむれど云語のこ遺れりむせ活く言取也むむを得  
らむと活く語まよ浦末あど北類ひも有れど其を麗をゆ  
起て和行の干取ゆ凡て阿行の宇は成色あるを和行北  
于魯雅色取るこせ上るも下ふも述るが如し次尔奉依諸  
言ふも各々此差別あり和行の加行北從ふえ侗受佐行北  
諸言戎も致了合せて辨ふ登し  
从ふは主多行の從ふえ歌内愛那行北从ふえ海畝波行の

從ふは諾麻行此從ふ也美倦績埋夜行此从ふは言れし和  
行の從ふ也殖飢魚あり此等此字みれ右の三義を出さ依  
城以て知るし。亦本是等の言をり轉用假借し出さ依諸言  
は自然了字也此義字生せり其也 ○はて延此音義の定は  
本篇ふ次く釈く城見て知るし。 ○はて延此音義の定は  
依尔上件此合口言れる字流の字禮と活らるる禮聲此副  
ある故了開口して延此純聲爾調了り抑延を伊とは上下  
反對尔して甚近く通ふ聲あり其も彼元氣ま舌上り進  
みて伊聲城生じ然て舌本尔退交て延聲と成まり其進退  
此形象を譬へむ伊也喉外舌上り細く響たて進む氣勢形  
る城延は喉内尔太く應了て強く受納るる勢あり。此是師  
此漢字

三音考れる二色の因字見て人々自から呼試みて知るし  
伊を呼ぶる也下唇城はし出る勢形る城延を呼ぶる也下  
唇をい支入るる趣あり是城以て此聲自然了也他も自  
是也二色進退の象形る是城以て此聲自然了也他も自  
也押令交る意あり故古説も此城令言と謂ふ其の中も  
我了令はる意ぞ本れる然れを得を延流とも字流や也云  
ひ來たまで延是本尔て字は却りて末れる也。但し自  
ぞ本れる也云を心得か多く思ふ人も有む此を譬牙バ  
往き説支と云は是言往く説く也云は用言往け説く也云  
是令言を謂ふ也此も語意あり以來也他学此人等も此  
知て在れど此も我が往支我が往くと猶豫思ふ時工  
く事あり是を以て往支き説をたの意あり其往くむ説  
一往け也一説ると自から押令交る意あり其往くむ説  
のむと云ふも自吾が思はて是音城曳たて云依言を上  
ふ心れる城めて知るし。 ○はて延此音義の定は  
出せる神武天皇此大御歌の末小疊引志夜胡志夜此者

伊基能布曾此五字以音也有る盈く是尔て乃劇責之依聲あり。

疊くは師説の如く盈く北誤字あり然る是師説る此言を。

今俗に醜惡支事はと或は汗穢死事れと戎見聞て延く也

云ふ是惡み踈む歎息の聲れ也此も其も同くて兄宇迦斯

ガ負氣なく逆ち依所爲を辱し允惡みと依辭なり音引と

は二北盈字離しては讀み只一北盈を長呼ぐ如く引支て

讀免との注なり阿く北下れるめ同じ也何也實不も俗に

北過失字爲出る戎傍をり嘲て延く戎の延く人れと

のら善きみと云ふ如く聞ゆるは乃夜行の曳北余とも通

ふ所以ありて其延く也云ひ余以と云ふ彼れも惡支事ありれ

北辭なり本編佐行篇の第七章ふ云ふ志夜と云も詈りけて

宇治拾遺五仲胤僧都説法北條了僧都伽く良く也笑ひて。

此を仲胤が作る也し句あり盈い盈い也云ひて云くと有

依を當る上北盈く引音とあ依る同じ也伽良くは笑ふ也加

良く也も云ふ也切る詞大あり此頃の説經をバ犬のく

北文に云ふ也切る詞大あり此頃の説經をバ犬のく

也説經といふぞ犬を人の糞を食ひて糞をはる也仲胤

ガ説經字をりて此頃北説經師を次まむ犬北く我説經と

云ふ也りと云ふ也る加くて是聲未と應聲とも成れ也此も同

書る兒徒虚寢入志ある條也いは一度れこせかし也思ひ

祿り聞らば心志く也只食ふ也音北志けき盛安を無

くてむす北後り也也いと答され也僧とあ笑ふ也限ありし

也有る是あり也答の色も也いと云ふ也今世も常あり事

中世の書らふ重き物あどカを入れて持上る時、まゝ矢  
咄トびトもト色トを出して云く、取ど云、事も多りゆ。此  
て此延聲ト上ト件ト此譜トの如く、良行ト此五聲相ト副ト牙トば、延良延  
理延流延禮延呂と活ト死トて、劇得ト取トどの祖言ト外トるト更トあり。  
此ト劇ト起トて得トの本言トと聞トゆるトこトせト上トるト云トふト如  
し、亦ト別ト了ト擇トり、擇トるト擇トれ、擇トらトむトと活トくト語トも有トれど、擇トる  
を余流トとも云ふ言あれど、此ト夜行トの曳トとト加行ト此ト從トふトを  
通トえトゆ、其行ト此所ト云ふを合せ、攷トふトをト加行ト此ト從トふトを  
何ト此ト陋言ト、依行ト此ト從トふトは、率ト此ト陋言ト、多行ト此ト從トふト至トの陋言。  
那行トの從トふト否トの陋言、波行ト此ト從トふトは、岩トの陋言、麻行ト此ト從  
ふト今ト此ト陋言ト、夜行ト此ト從トふトは、辭トの陋言、和行ト此ト從トふトを言トれ  
し、然トれど延トをみトる、劇得トの延トと同義トあり。抑ト是ト等ト此ト言トども  
ふトこトせ無トれど、舌ト鈍トとる人ト等トを、活トしトて、恒ト云トふ事トふて、是  
るをえある否トむト字トえあり、今ト我トえ、活トれど、恒ト云トふ事トふて、是

み、伊トと延トを素トとゆ、近く通トるトバあり、然トて枝ト胞ト夷ト鯨ト鯨トあ  
ど此類トひ、此延トを屬トと思トはる、言トも有トれど、徐トるト按ト牙トバ  
夜行トの曳ト取トらむ、歎トと思トふ。○はて於ト此音義トの定トはるト上  
由あり、其行トを見て知トる。○はて於ト此音義トの定トはるト上  
件の合口ト言トれ、宇流トの宇呂トを活トる、依トるト呂聲ト此副トる故  
了、開口トして於ト此純聲ト調ト牙ト抑ト於ト阿ト内ト外ト反對トし  
て、甚ト近く通トふ聲トあり、其ト彼元氣トより喉トより口ト開トて  
外トよト出トて、阿聲ト上トる生トじ、立ト還トりて、喉ト元トを壓ト入ト依ト如トく、内  
小大ト死トく於ト聲トを成トる、故ト其音象トを推考トふる、小阿トを喉外  
小輕トく、其廣トさ際ト死ト如トく聞トゆる、於ト喉内ト爾重トく、其廣  
さ限トあ依ト如トく聞トゆる聲トあり。是トは人ト々自トから、呼トび試トみ  
外トり、溢トまて、カトれトきト如トく、於ト内ト爾窄トみて、大死トく、阿ト此大  
聞象トされて、活トと自然トる、於ト此大ト量トり、知トる、大死トく、阿ト此大

量<sup>ハカ</sup>知<sup>チ</sup>る<sup>ル</sup>考<sup>カウ</sup>ふ<sup>フ</sup>趣<sup>ス</sup>は<sup>ハ</sup>是<sup>コト</sup>を<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>て<sup>シ</sup>此<sup>ノ</sup>聲<sup>ノ</sup>自<sup>ラ</sup>然<sup>ル</sup>大<sup>キ</sup>に<sup>テ</sup>物<sup>ヲ</sup>字<sup>ヲ</sup>壓<sup>ス</sup>覆<sup>フ</sup>  
 あ<sup>リ</sup>巴<sup>シ</sup>熟<sup>ク</sup>考<sup>ヘ</sup>ふ<sup>ル</sup>趣<sup>ハ</sup>是<sup>ヲ</sup>を<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>て<sup>シ</sup>此<sup>ノ</sup>聲<sup>ノ</sup>自<sup>ラ</sup>然<sup>ル</sup>大<sup>キ</sup>に<sup>テ</sup>物<sup>ヲ</sup>字<sup>ヲ</sup>壓<sup>ス</sup>覆<sup>フ</sup>  
 不<sup>レ</sup>意<sup>ハ</sup>あ<sup>り</sup>て<sup>シ</sup>大<sup>キ</sup>字<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>を<sup>ヲ</sup>成<sup>ス</sup>る<sup>ル</sup>古<sup>ノ</sup>説<sup>ヲ</sup>了<sup>ス</sup>大<sup>キ</sup>に<sup>テ</sup>物<sup>ヲ</sup>字<sup>ヲ</sup>壓<sup>ス</sup>覆<sup>フ</sup>  
 五<sup>ノ</sup>音<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>最<sup>ト</sup>末<sup>ト</sup>居<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>第<sup>一</sup>の<sup>ノ</sup>阿<sup>ノ</sup>聲<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>廣<sup>大</sup>あ<sup>る</sup>る<sup>ル</sup>匹<sup>ノ</sup>對<sup>ス</sup>  
 して<sup>シ</sup>助<sup>ク</sup>依<sup>ル</sup>由<sup>リ</sup>通<sup>ス</sup>え<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>助<sup>言</sup>此<sup>ノ</sup>説<sup>ヲ</sup>合<sup>セ</sup>考<sup>ヘ</sup>ふ<sup>ル</sup>趣<sup>ハ</sup>是<sup>ヲ</sup>を<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>て<sup>シ</sup>此<sup>ノ</sup>聲<sup>ノ</sup>自<sup>ラ</sup>然<sup>ル</sup>大<sup>キ</sup>に<sup>テ</sup>物<sup>ヲ</sup>字<sup>ヲ</sup>壓<sup>ス</sup>覆<sup>フ</sup>  
 於<sup>テ</sup>字<sup>ハ</sup>於<sup>テ</sup>一<sup>ノ</sup>也<sup>ハ</sup>曳<sup>ヒ</sup>死<sup>シ</sup>呼<sup>ビ</sup>る<sup>ル</sup>止<sup>メ</sup>の<sup>ノ</sup>聲<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>侍<sup>所</sup>此<sup>ノ</sup>御<sup>神</sup>  
 樂<sup>次</sup>第<sup>一</sup>の<sup>ノ</sup>阿<sup>ノ</sup>知<sup>メ</sup>女<sup>メ</sup>法<sup>ヲ</sup>本<sup>方</sup>拍<sup>子</sup>取<sup>リ</sup>阿<sup>ノ</sup>知<sup>メ</sup>女<sup>メ</sup>於<sup>テ</sup>於<sup>テ</sup>末<sup>方</sup>  
 拍<sup>子</sup>取<sup>リ</sup>於<sup>テ</sup>介<sup>ノ</sup>末<sup>方</sup>阿<sup>ノ</sup>知<sup>メ</sup>女<sup>メ</sup>於<sup>テ</sup>於<sup>テ</sup>末<sup>方</sup>於<sup>テ</sup>介<sup>ノ</sup>本<sup>方</sup>取<sup>リ</sup>合<sup>セ</sup>於<sup>テ</sup>  
 於<sup>テ</sup>本<sup>末</sup>共<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>云<sup>也</sup>末<sup>方</sup>於<sup>テ</sup>介<sup>ノ</sup>也<sup>ハ</sup>有<sup>レ</sup>依<sup>ル</sup>於<sup>テ</sup>是<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>て<sup>シ</sup>其<sup>ノ</sup>御<sup>歌</sup>  
 ぬ<sup>レ</sup>哉<sup>歌</sup>ふ<sup>ル</sup>每<sup>度</sup>小<sup>此</sup>法<sup>あり</sup>年<sup>中</sup>行<sup>事</sup>祕<sup>抄</sup>小<sup>鎮</sup>魂<sup>祭</sup>の<sup>神</sup>  
 と<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>於<sup>テ</sup>介<sup>ノ</sup>て<sup>シ</sup>ふ<sup>言</sup>等<sup>あり</sup>と<sup>三</sup>度<sup>懸</sup>居<sup>宇</sup>斯<sup>の</sup>神<sup>遊</sup>考<sup>ル</sup>於<sup>テ</sup>

於<sup>テ</sup>是<sup>ヲ</sup>笑<sup>ふ</sup>聲<sup>あり</sup>或<sup>説</sup>も<sup>然</sup>る<sup>る</sup>答<sup>ふ</sup>を<sup>雄</sup>に<sup>此</sup>假<sup>字</sup>小<sup>て</sup>  
 去<sup>聲</sup>れ<sup>り</sup>笑<sup>ふ</sup>を<sup>平</sup>聲<sup>あれば</sup>古<sup>本</sup>等<sup>も</sup>み<sup>あ</sup>於<sup>テ</sup>は<sup>書</sup>さ<sup>り</sup>  
 云<sup>く</sup>也<sup>有</sup>れ<sup>ど</sup>笑<sup>ふ</sup>聲<sup>小</sup>を<sup>非</sup>交<sup>ス</sup>神<sup>遊</sup>考<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>事<sup>疑</sup>は<sup>し</sup>く<sup>思</sup>  
 牙<sup>ヲ</sup>る<sup>る</sup>空<sup>徳</sup>物<sup>語</sup>倉<sup>開</sup>き<sup>上</sup>る<sup>云</sup>く<sup>也</sup>宣<sup>牙</sup>バ<sup>一</sup>度<sup>一</sup>度<sup>也</sup>ル<sup>也</sup>  
 知<sup>ル</sup>也<sup>也</sup>と<sup>書</sup>れ<sup>し</sup>文<sup>あり</sup>然<sup>依</sup>る<sup>其</sup>物<sup>語</sup>字<sup>見</sup>れ<sup>ル</sup>也<sup>其</sup>二<sup>所</sup>  
 共<sup>ニ</sup>了<sup>ル</sup>也<sup>也</sup>と<sup>書</sup>れ<sup>し</sup>文<sup>あり</sup>然<sup>依</sup>る<sup>其</sup>物<sup>語</sup>字<sup>見</sup>れ<sup>ル</sup>也<sup>其</sup>二<sup>所</sup>  
 同<sup>ニ</sup>也<sup>也</sup>然<sup>レ</sup>也<sup>也</sup>此<sup>ハ</sup>宇<sup>斯</sup>の<sup>例</sup>也<sup>也</sup>引<sup>リ</sup>や<sup>有</sup>レ<sup>ル</sup>也<sup>也</sup>去<sup>声</sup>  
 平<sup>声</sup>也<sup>也</sup>云<sup>く</sup>也<sup>也</sup>此<sup>ハ</sup>宇<sup>斯</sup>の<sup>例</sup>也<sup>也</sup>引<sup>リ</sup>や<sup>有</sup>レ<sup>ル</sup>也<sup>也</sup>去<sup>声</sup>  
 愚<sup>按</sup>抄<sup>を</sup>此<sup>ハ</sup>大<sup>御</sup>神<sup>此</sup>御<sup>前</sup>尔<sup>御</sup>遊<sup>び</sup>仕<sup>奉</sup>る<sup>態</sup>あり<sup>故</sup>也<sup>也</sup>  
 集<sup>へ</sup>る<sup>人</sup>の<sup>鳴</sup>高<sup>支</sup>を<sup>制</sup>め<sup>て</sup>警<sup>蹕</sup>也<sup>依</sup>御<sup>式</sup>あり<sup>其</sup>也<sup>是</sup>次<sup>也</sup>  
 第<sup>一</sup>初<sup>ニ</sup>先<sup>人</sup>長<sup>庭</sup>火<sup>乃</sup>前<sup>仁</sup>出<sup>來</sup>云<sup>鳴</sup>高<sup>く</sup>二<sup>度</sup>云<sup>く</sup>也<sup>也</sup>  
 見<sup>え</sup>右<sup>北</sup>阿<sup>知</sup>女<sup>法</sup>と<sup>下</sup>尔<sup>も</sup>其<sup>法</sup>あり<sup>て</sup>其<sup>所</sup>尔<sup>也</sup>本<sup>方</sup>



阿知女志於末方阿知女志於本方取合志於  
末方取合志於又本志二度と有也此を數古本を校して引と也愚按  
抄本は是志於此字侍中群要三卷供御事此條了初供御膳人先  
取蓋盤入立鬼間御障子之間稱警蹕其詞オシ持寄御大盤  
許跪云くぞ有る尔按ひ合せて所知と也其詞オシ也有依  
警蹕の事依て此書よ委く見えと也和訓栞小をの  
と見也云くとて天竺の庵此北朝鮮の清道と書ある  
旗の事如ど云出あるは皆非あり殊己が見さる侍中群  
要北本ぞも小其詞残んと作る本一本ど小取交物字や  
尚云は枕草子い牙は北條了日たはし此方了おもは  
參る足おと高し警蹕おと衰く志くぞ云ふ聲如こ也と云

依も此事あり於くぞ云ひ志くと云ふ支城約免て於志と  
一言尔云依あるが衰志北を中世書北例の假字違ひれ  
已春曙抄了をしくは足れと北高を警むるれり源氏宿  
抄尔陪膳人警候とあ依心やと有る然る言已然る  
文を引交て於志と云ふを天忍石水北事尔うけ水字飲  
む時の祝言を於今人有則祝日於志麻奴亦忍水之轉  
訛也とも云る甚じ今誣會北說あり春曙抄も恐れを  
云る心形記と云る如く今も兒の教牙を用意時れど物有  
依趣了言志於古化物の繪卷本は人字も物残も追静む  
昔も志有し不や古化物の繪卷本は人字も物残も追静む  
物の形をも畫る然て志くと云は人字も物残も追静む  
る詞れ已本編佐行篇の第是警蹕の聲北於る由冬衣  
三章尔釋く成見て知る是警蹕の聲北於る由冬衣

はと警蹕伏ハフシザ一ハ爾稱也ハオキ稱唯起ハオキザ一ハ爾稱也ハオキとあり。和訓栞  
此文字引交て警蹕而後平伏ハ也ハ依ハ稱唯ハ表ハくハ唱ハ了ハ。  
合音ハぬる故ハ了ハ塞ハ口ハを宣ハひ警蹕ハを於ハくハを稱ハ了ハて開音ハぬる  
故ハ爾ハ開ハ口ハと宣ハへ依ハぬり。諸儀式書はと神樂次第あどハ  
稱唯と云ふ也數知ら多うる中  
皆右北故実字ハ知ハざる人の誤ハあり未ハる警蹕ハを畏ハむべハ支ハ由  
字ハ示ハし聲ハぬる故ハ了ハ伏ハさばハ爾稱ハし稱唯ハは令ハせハ城承給ハはり。  
答ハふる聲ハあ依ハ故ハ了ハ起ハ了ハ未ハ了ハ稱ハ了ハ也ハや。警蹕のこと西土の  
あ依は據りて其方さば爾論ふ人も有れど皇朝ふも出入  
とぬる於く志くと稱了て拘はぬ給はぬ事と聞えて警と  
蹕をを別れて稱了るこ也未見及ば是是淺深秘抄の  
文もても知るしあ中西宮記北山抄江次第あど故実北書  
等も見えとる趣はて此於の壓覆ハふ義ハある由ハ也上件ハの譜

の如く良行ハ北ハ五聲相副ハ了ハバ於良於理於流於禮於呂ハ也ハ活  
死ハて織降卸ハぬど北祖言ぬるを更ハあり。是を卸の義とり起  
織らむ降り降る也も活死て水北塗あど云ふも同言不て  
共了れり重成也壓覆ふ意とりかく種く不活用るあり  
加行ハ北ハ從ハふを置ハ沖奥攫奢佐行ハ北ハ從ハふは押ハ壓ハ恐ハ多行ハの从  
ふ也ハ穩ハ落ハ怕ハ音ハ那行ハ北ハ從ハふを鬼ハ已ハ波行ハ北ハ從ハふを逐ハ負ハ大ハ麻  
行ハの從ハふは臣ハ瞞ハ夜行ハの从ハふを親ハ老ハ及ハ和行ハ北ハ從ハふは休ハ聲  
ぬり此等ハ北ハ於ハみも厭ハ覆ハ北ハ義ハぬる也ハ思ハふハ也ハ。此れは是等の  
假借し出さる言北數知ら多う依も首爾於ぬは負あ  
る言北限り中ふて別義北ご也聞ゆるぬ有めまど思ひを  
深免て考ふまは壓覆ふ義了歸せざ依言ある○はて本行  
事ハぬし其ハ本ハ篇ハふ次ハく釈ハくハ城ハ見ハて知ハるハ也ハ。  
五聲ハ北ハ大ハ要ハ城ハ復ハ了ハく不取ハ都ハて云ハむハ也ハ阿ハ是ハ宇ハ良ハ与ハり起ハ也

て現有<sup>アラアリ</sup>此義ありし。單音<sup>ツ</sup>不切<sup>ツ</sup>りて。彼<sup>カ</sup>此義を成<sup>シ</sup>。初段<sup>ノ</sup>不  
位<sup>シテ</sup>。加<sup>カ</sup>佐<sup>サ</sup>多<sup>タ</sup>那<sup>ナ</sup>波<sup>ハ</sup>麻<sup>マ</sup>夜<sup>ヤ</sup>和<sup>ワ</sup>良<sup>ラ</sup>。其<sup>ノ</sup>韻<sup>ヲ</sup>授<sup>テ</sup>。各行<sup>ノ</sup>初<sup>ノ</sup>聲<sup>ヲ</sup>  
ある<sup>ル</sup>。此<sup>ヲ</sup>誰<sup>モ</sup>云<sup>フ</sup>如<sup>ク</sup>。加<sup>カ</sup>行<sup>以下</sup>初<sup>ノ</sup>段<sup>ノ</sup>色<sup>等</sup>  
理<sup>ヲ</sup>起<sup>テ</sup>。苛<sup>イ</sup>入<sup>リ</sup>の<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>取<sup>リ</sup>。單音<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>調<sup>ヒテ</sup>。氣<sup>ヲ</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>  
成<sup>シ</sup>。二<sup>ノ</sup>段<sup>ノ</sup>居<sup>テ</sup>。伎<sup>キ</sup>志<sup>シ</sup>知<sup>チ</sup>爾<sup>ニ</sup>比<sup>ヒ</sup>美<sup>ミ</sup>以<sup>テ</sup>章<sup>リ</sup>。其<sup>ノ</sup>韻<sup>ヲ</sup>授<sup>テ</sup>。各<sup>ノ</sup>  
行<sup>ノ</sup>定<sup>メ</sup>聲<sup>ヲ</sup>あら<sup>し</sup>め。此<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>行<sup>以下</sup>第<sup>二</sup>段<sup>ノ</sup>色<sup>等</sup>を<sup>長</sup>く<sup>引</sup>き<sup>呼</sup>ぶ<sup>ヲ</sup>。盡<sup>ク</sup>伊<sup>イ</sup>色<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>歸<sup>ル</sup>云<sup>フ</sup>。宇<sup>ヲ</sup>  
是<sup>ノ</sup>宇<sup>ヲ</sup>流<sup>ル</sup>より起<sup>テ</sup>。情<sup>ヲ</sup>潤<sup>ル</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>ありし。單音<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>切<sup>テ</sup>。諾<sup>ノ</sup>  
義<sup>ヲ</sup>を成<sup>シ</sup>。三<sup>ノ</sup>段<sup>ノ</sup>居<sup>テ</sup>。久<sup>ク</sup>須<sup>ス</sup>都<sup>ツ</sup>奴<sup>ヌ</sup>布<sup>フ</sup>牟<sup>ム</sup>由<sup>ユ</sup>于<sup>ヨ</sup>流<sup>ル</sup>。其<sup>ノ</sup>韻<sup>ヲ</sup>  
授<sup>テ</sup>。各<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>用<sup>ヲ</sup>聲<sup>ヲ</sup>たら<sup>し</sup>め。此<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>行<sup>以下</sup>第<sup>三</sup>段<sup>ノ</sup>色<sup>等</sup>  
不<sup>レ</sup>歸<sup>ル</sup>云<sup>フ</sup>。延<sup>ニ</sup>字<sup>ヲ</sup>禮<sup>ス</sup>より起<sup>テ</sup>。劇<sup>ヲ</sup>得<sup>ル</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>ありし。單音<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>調<sup>ヒ</sup>  
哉<sup>ヲ</sup>謂<sup>フ</sup>。延<sup>ニ</sup>字<sup>ヲ</sup>禮<sup>ス</sup>より起<sup>テ</sup>。劇<sup>ヲ</sup>得<sup>ル</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>ありし。單音<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>調<sup>ヒ</sup>

ひて。獲<sup>テ</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>を成<sup>シ</sup>。四<sup>ノ</sup>段<sup>ノ</sup>位<sup>ニ</sup>して。祁<sup>ケ</sup>世<sup>セ</sup>氏<sup>シ</sup>禰<sup>ネ</sup>閉<sup>ヘ</sup>米<sup>メ</sup>曳<sup>エ</sup>惠<sup>ヱ</sup>禮<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>  
其<sup>ノ</sup>韻<sup>ヲ</sup>を授<sup>テ</sup>。各<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>令<sup>ヲ</sup>聲<sup>ヲ</sup>あら<sup>し</sup>め。此<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>行<sup>以下</sup>第<sup>四</sup>段<sup>ノ</sup>  
不<sup>レ</sup>歸<sup>ル</sup>云<sup>フ</sup>。於<sup>テ</sup>是<sup>ノ</sup>宇<sup>ヲ</sup>呂<sup>ヲ</sup>より起<sup>テ</sup>。卸<sup>ヲ</sup>織<sup>ル</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>取<sup>リ</sup>。單<sup>音</sup>  
音<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>切<sup>テ</sup>。大<sup>ニ</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>を成<sup>シ</sup>。五<sup>ノ</sup>段<sup>ノ</sup>居<sup>テ</sup>。古<sup>コ</sup>曾<sup>ソ</sup>登<sup>ト</sup>能<sup>ノ</sup>保<sup>ホ</sup>毛<sup>モ</sup>余<sup>ヨ</sup>袁<sup>ヱ</sup>  
呂<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>其<sup>ノ</sup>韻<sup>ヲ</sup>を授<sup>テ</sup>。各<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>終<sup>ノ</sup>聲<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>成<sup>ス</sup>。此<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>行<sup>以下</sup>第<sup>五</sup>段<sup>ノ</sup>色<sup>等</sup>  
於<sup>テ</sup>此<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>聲<sup>ヲ</sup>各<sup>ノ</sup>右<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>等<sup>ヲ</sup>あ<sup>ら</sup>す。其<sup>ノ</sup>發<sup>音</sup>不<sup>レ</sup>固<sup>ク</sup>。其<sup>ノ</sup>象<sup>ヲ</sup>あら<sup>し</sup>め。良<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>相<sup>ヲ</sup>副<sup>ヒテ</sup>。殊<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>  
の<sup>ノ</sup>諦<sup>ヲ</sup>を調<sup>ヒテ</sup>。良<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>去<sup>レ</sup>る<sup>後</sup>も。亦<sup>モ</sup>永<sup>ク</sup>右<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>音<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>を存<sup>ス</sup>  
せり。其<sup>ノ</sup>唯<sup>ニ</sup>阿<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>のみ<sup>ニ</sup>然<sup>ル</sup>。非<sup>ズ</sup>。良<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>は<sup>一</sup>度<sup>ニ</sup>阿<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>偶<sup>ズ</sup>  
して。右<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>を成<sup>セ</sup>。亦<sup>モ</sup>常<sup>ニ</sup>久<sup>シ</sup>。其<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>を失<sup>ハ</sup>。其<sup>ノ</sup>諸

言此下不活用く。良行此聲ども自然有入得劇降れど此  
義字含免ゆ。猶良行の所よ云、残も見ざるをし。

加久良 伎久理 久久流 祁久禮 古久呂  
加良 伎理 久 祁禮 古呂

此行此五聲は。日文傳ふ云、依如く牙哮此剛音。其父聲と爲  
也。阿行の元音。其母韻と爲也。齊へる聲等取るぐ。其音象  
字按ふよ。加多加良理と志と依聲。伎は伎理と志とある聲。  
久と久流理と志とある聲。祁と祁禮理と志と依色。古と古呂  
理と志とある聲。て共く加く良行の五聲。其此形象残助け  
て。例此合口言取る。久流てふ言此出來しと也。起り初る  
依。此と古今よ。加良理。加く良く。伎理く。伎く理く。久流理。久  
久流く。祁禮理。祁く礼く。古呂理。古く呂く。如く謂ふ。形容

言此多うる哉。思ひ通して辨ふは。然て本色の下不。久良  
加良形ど注せるを。其本義とる言取り。次小委く云ふを俟  
て。其由多。加行篇此初章取る。二十五言哉。神典此古傳と。阿  
聲不。加行の從牙依五言と不。徴し攷りてぞ所知る依は。於

加良 伎良 久良 祁良 古良 其二十五言此譜かく

加理 伎理 久理 祁理 古理 純如し。是章尔第三段

加流 伎流 久流 祁流 古流 此如し。久流の合口言

加禮 伎禮 久禮 祁禮 古禮 此如し。其中央小位し

加呂 伎呂 久呂 祁呂 古呂 此如し。其堅横はと斜不貫

二十五言を。久流与也起り。旋此義不して。久良。久理。久流。久  
禮。久呂を活る依ぐ。久良多加を約りて。初段不居也。久理を

伎と約<sub>レ</sub>也。二段<sub>ヲ</sub>居<sub>レ</sub>也。久流<sub>ニ</sub>久<sub>キ</sub>締<sub>レ</sub>りて。素<sub>ト</sub>比<sub>ス</sub>。三段  
 居<sub>キ</sub>於<sub>レ</sub>支。久禮<sub>ニ</sub>也。約<sub>レ</sub>りて。四段<sub>ヲ</sub>居<sub>レ</sub>也。久呂<sub>キ</sub>古<sub>キ</sub>約<sub>レ</sub>也。  
 五段<sub>ヲ</sub>居<sub>レ</sub>也。是<sub>レ</sub>戎<sub>以</sub>て。此行<sub>ニ</sub>五聲<sub>ハ</sub>比<sub>テ</sub>初<sub>ノ</sub>義<sub>ハ</sub>。共<sub>ニ</sub>旋<sub>字</sub>比<sub>テ</sub>義  
 あり。但<sub>シ</sub>其<sub>ノ</sub>段<sub>位</sub>也。五母<sub>ノ</sub>韻<sub>ノ</sub>次<sub>第</sub>也。因<sub>テ</sub>依<sub>ル</sub>こ<sub>ト</sub>也。既<sub>ニ</sub>小<sub>云</sub>る<sub>ガ</sub>  
 如<sub>シ</sub>。旋<sub>字</sub>は。說<sub>文</sub>方<sub>部</sub>。周<sub>旋</sub>。旌<sub>旗</sub>之<sub>指</sub>。麾<sub>也</sub>と見<sub>エ</sub>。段<sub>注</sub>不<sub>レ</sub>  
旗有所。鄉必運轉。其。枉。是。曰。周旋。引伸。為。凡。轉運之。僞。と  
云。ひ。他。字。書。ど。も。小。疾。也。還。也。回。也。と。も。云。也。蓋。去。是。五。色  
北。初。義。字。こ。ぎ。云。牙。亦。每。色。種。々。比。木。義。あり。其。下。不。謂  
ふ。を。見。は。て。如。此。也。云。て。旋。字。比。本。義。あり。加。伎。久。古。不。は  
依。を。見。は。て。如。此。也。云。て。旋。字。比。本。義。あり。加。伎。久。古。不。は  
 各<sub>々</sub>小<sub>良</sub>行<sub>ノ</sub>五聲<sub>相</sub>副<sub>レ</sub>。は。加<sub>キ</sub>初<sub>段</sub>軌<sub>ノ</sub>活<sub>用</sub>也。成<sub>レ</sub>也。  
 伎<sub>ハ</sub>二<sub>段</sub>煌<sub>比</sub>活<sub>機</sub>と<sub>レ</sub>なり。久<sub>ニ</sub>素<sub>比</sub>如<sub>ク</sub>。三<sub>段</sub>旋<sub>比</sub>活<sub>用</sub>  
 戎<sub>爲</sub>し。祁<sub>ニ</sub>四<sub>段</sub>消<sub>ノ</sub>活<sub>用</sub>也。成<sub>レ</sub>也。古<sub>キ</sub>五<sub>段</sub>凝<sub>ノ</sub>活<sub>機</sub>と<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>也。

まり。此<sub>キ</sub>是<sub>レ</sub>行<sub>比</sub>轉<sub>用</sub>せ<sub>レ</sub>依<sub>初</sub>なり。軌は說文軌部。不。日。始。出。光。軌。也。从。旦。从。彗。と。有  
ゆ。て。世。言。小。加。良。理。也。軌。加。良。理。と。晴。る。れ。と。謂。ふ。形。容。言  
不。叶。牙。字。形。也。煌。同。書。火。部。不。煌。輝。也。从。火。皇。彗。と。見  
也。他。字。書。ど。も。不。音。見。明。也。と。も。あり。消。身。韻。會。小。說。文。消。盡  
也。从。水。肖。色。と。見。元。字。彙。不。減。也。減。也。衰。也。退。也。釈。也。殺。也。凡  
ど。の。也。凝。を。韻。會。小。增。韻。結。也。一。曰。成。也。定。也。水。堅。也。也。あり  
消。凝。を。例。の。引。伸。ふ。て。如。此。用。ひ。し。れ。也。然。て。凝。を。元。を。古  
呂。不。根。せ  
る。言。形。也。然。依。り。良。行。比。五。聲。は。を。之。形。容。与。り。機。支。副。牙。依  
 聲<sub>等</sub>あり。其<sub>ノ</sub>本<sub>聲</sub>於<sub>レ</sub>ひ<sub>テ</sub>去<sub>レ</sub>て。韻<sub>ノ</sub>み<sub>殘</sub>也。加<sub>キ</sub>伎<sub>久</sub>祁<sub>古</sub>比  
 單<sub>聲</sub>と<sub>レ</sub>齊<sub>レ</sub>る<sub>ガ</sub>。一<sub>度</sub>加<sub>ク</sub>良<sub>行</sub>比<sub>副</sub>ひ<sub>テ</sub>。右<sub>比</sub>音<sub>義</sub>を<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>せ  
 依<sub>ル</sub>なり。永<sub>久</sub>不<sub>レ</sub>其<sub>ノ</sub>義<sub>を</sub>存<sub>レ</sub>て。各<sub>々</sub>其<sub>ノ</sub>音<sub>小</sub>自<sub>然</sub>比<sub>如</sub>く。軌<sub>煌</sub>  
 旋<sub>消</sub>凝<sub>ノ</sub>義<sub>字</sub>持<sub>レ</sub>り。然<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>れど。其<sub>ノ</sub>實<sub>ハ</sub>は。第<sub>二</sub>義<sub>あり</sub>  
ル。也。其。活。機。の。大。要。を。云。む。初。段。を。軌。不。起。り。て。幹。後。川。彼  
ル。也。輕。お。ど。北。祖。言。二。段。身。煌。は。起。也。て。霧。切。著。断。明。也。の

祖言三段は旋起して、闇操黒暮、此祖言四段能  
不起して著來、疑起能起して、懲永是比  
殺、言どの祖言ある類ひ、不轉用し、出と  
依言ども多うゆ、其本篇に就て見ゆし、了て是五聲比、然  
起れる由來を、神典了稽ふ依る。彼初免大空、生出し一物  
の浮雲にこせ、根係る所なく在ら依趣多、神代紀正書ふ天  
地未割、會易不分渾沌如雞子、溟滓而含牙と見え、古事記よ。  
久羅下那洲多陀、用幣流之時、有已此、其物の未割まざ  
依間多、會易構合比、狀れ已し傳ふて、此傳よ、溟滓を久く母  
理阿加久良れと訓と依と。久羅下那洲てふ譬言れ、是行  
の起ゆ哉、知る交神語形也。前條小引とる本文よ、其貌難言  
其は那行比下る、然るは其物の會易構合せ、依有狀尔、牙哉  
云、を見て知るし。

含みて溟滓れ、のら、或を明く、或多聞く、海月形を漂ひて、久  
久流く、旋免交、久く良く、久く禮く、在ら依狀字、目前  
見行せる、神比御情尔、志る所思看せ、依隨了、其様を、大御言  
不詔ひ形は、給予るが、此古傳比發出と依初了て、即是五  
聲比元基と多為まゆ、其は溟滓ゆて、牙を含むと有る、哉始  
覽せる、神あらば、其云ひ傳ふ、交由無れむ、乃其、神等の真  
語れる、海月形と云ふ、語は、稍後了、其漂る、狀字、形容  
と添ふる、詞あれど、殊る、熟く、叶ふ、譬も、已船了、正目  
よ、此、物比、海を漂ふ、様を見、事ある、実尔も、浪よ、月比、映  
れる、趣尔て、久く良く、久く、礼く、として、開く、如く、轉暮、子  
如く、見え、見え、見え、みる、物形、然れ、故、其、義、在、轉暮、子  
て、漂ふ、は、北、轉、として、暮消る、如、故、其、義、在、轉暮、子  
呼ひ、し、が、其、久、礼、の、切、れ、る、名、を、以、て、其、物、の、様、比、或、之  
空、漂る、依狀字、此、物、を、譬、牙と、依を、以、て、其、物、の、様、比、或、之  
明く、或を、聞く、久、良、久、礼、として、在、ら、事、哉、去、悟、て、比、祇、の、し。

抑其元基此然る所以也。阿聲不加分の從才依五言不因而  
ぞ所知る。其阿行篇第二章北初段ある。阿加阿伎阿久  
阿祁阿古北五言是なり。阿多皆例の指聲不て。彼北義取る  
哉。上件の二十五言を相照し攷ふ依り。初言の阿加は明北  
義あり。此多彼一物北久く流く久く良く在依字指し  
て。阿久良と詔せ依字。其物已り剖りて。精妙れるが萌騰  
て。天日成れる不尚旋くせして。赫支懸を依故不。阿久良  
やめて其言を爲す。良北開音不因而。阿加と約り。彼譜の  
初段れる。加良加理加流加禮加呂北活機をれし。乃彼旋は  
と彼開の義取るが。阿加と爲てハ。彼日はと彼所の義を取  
し。其を一字訓り綜ては。赤まよ明の義不て。明て。明る。明れ

明飛むと活用く哉謂ふ。阿賀と濁まじ。上  
騰れど北訓を取る。其も元をり同言取り。けて阿加良は阿  
加と約り。阿加理を阿伎と扱まり。阿加流を阿久を扱まり。  
阿加禮を阿祁と約り。阿加呂を阿古を約りて。明北活機取  
るが。赤開熟も元をり同言れり。然依を。其燃騰を依。天日は  
のり。赤著明取る物なく。其騰れる時多も。是世北開と依初  
かれ。然り。赤は説文ハ南方色也。从大火。段注リ。按赤色。至  
地。謂不毛也。と見え。明を同書。照也。从月。固。段注。火部。曰。  
照。明也。小徐作昭。昭。曰。明也。大雅。皇矣。傳。曰。照。臨。四。方。曰。  
明。凡。明。之。至。則。曰。明。く。明。く。猶。昭。く。也。と見や。其餘の字義を  
此。了。洩。し。猶。右。北。五。言。よ。り。機。出。さ。依。言。等。いと多あり。  
本篇を見。然れば阿聲不。加分北從才依五言を。彼譜の初行  
れる。加良伎良久良祁良古良の活用と多。其元一不して。彼

旋と指と依言此活機ありしが。阿加。阿伎れど此五言は。其  
副ある良聲の去れる言。加良伎良等此二十五言を。其冠と  
依阿聲此省の也。齊子依言等ふて。共う右此古傳を詔ひ出  
ある。當初此神語形するものと疑れし。其を阿色を。凡て指と出  
ざる色形する。彼阿加は。彼旋と指ある物あり。彼軌と指と出  
る事ありて。発れる言形するを以て。かくを謂ふあり。其を此  
阿加の姑く良行の五色をそ。彼加理加流れどの五言を。此  
依り各指詞此阿を冠らし。活用かし。呼試みても知る交  
也。○はて上件を。此行此起原。よる各音小。一義を持と依。都  
較の説ある。亦同行互う音義相通ふ事此有るを。彼二十  
五言此横五段縦五行小整へる上りて。初行の五言は。共う  
加を成也。第二行の五言を。共う伎とれ也。第三行此五言を。

共う久を成り。第四行此五言は。共う祁也形り。第五行の五  
言を。共う古と成れる。不因依事あり。故是を以て。同行あり  
形ら。加を呼ぶ色を。一不して。其義の易る事あり。其を抑  
此。一色此。然る。非。伎久。祁古も。共う。れ。お。じ。趣。あり。抑  
是行の五聲。かく彼。二十五言此。混錯りて。調子る。が。故。う。今  
志め。一義を執ては。決。免。難。交。る。似。多。れ。ど。其。中。小。就。て。加。此  
主ある。軌の義。不。て。久。良。加。良。此。約。也。伎の。主。と。依。を。煌。純  
義。う。て。久。理。伎。理。此。約。り。久。を。旋。の。義。素。ふ。て。上。下。此。四。義。を  
兼。祗。祁。此。主。ある。を。消。此。義。う。て。久。禮。祁。禮。此。約。也。古。此。主。と  
依。を。疑。の。義。不。て。久。呂。古。呂。此。約。を。志。て。各。く。其。上。り。冠。れ。る  
四十五言。各。く。其。下。る。從。へ。る。五。十。言。共。う。此。義。小。差。ふ。事。れ



志。各々其上不冠れり。四十五言とハ。加伎久。古を頭。不冠  
る。五言とハ。加伎久。古。下。不。從。子。各。其。下。不。從  
言。於。有。謂。ふ。そ。既。不。古。言。活。用。北。條。加。行。の。所。云  
ゆ。祖。言。形。斯。て。此。四。十。五。言。是。行。五。色。の。上。不。在。ゆ。て。機  
ゆ。祖。言。形。斯。て。此。四。十。五。言。是。行。五。色。の。上。不。在。ゆ。て。機  
其。義。を。生。せ。り。其。由。は。本。篇。の。次。く。釈。以。て。行。く。見。て。知。る  
也。ち。て。此。五。聲。は。必。佐。行。と。同。志。く。牙。喞。不。起。れ。る。う。牙。喞  
を。元。与。り。剛。不。堅。如。れ。依。之。柔。不。交。利。れ。る。を。相。兼。と。依。所。不  
て。此。行。を。其。剛。不。堅。如。形。る。方。と。ゆ。發。き。依。聲。等。ふ。る。故。り。其  
音。象。自。然。不。其。趣。不。聞。え。て。右。北。如。く。五。義。不。別。也。軌。煌。旋。消  
凝。そ。北。顯。了。立。ち。旋。拔。北。幽。を。主。也。言。靈。の。幸。戎。爲。こ。也。上  
件。の。譜。字。視。て。知。る。し。其。右。二。十。五。言。北。譜。北。こ。非。矣。本。篇。每。章。の。二。十。五。言。ど。も。皆。是。例。也。

或人此、行の音象を評して、譬牙、劔、太、刀、鞘、也、出、て、伊、  
香山と云、如く、劔、擊、の、響、れ、音、を、心、の、底、に、徹、り、て、聞、也、  
を、云、牙、依、て、突、り、然、ち、て、其、音、象、の、隨、り、加、せ、初、段、不、在、り、て、  
言、と、ぞ、聞、え、と、依、ち、て、其、音、象、の、隨、り、加、せ、初、段、不、在、り、て、  
極、免、初、む、依、音、戎、爲、し、伎、を、二、段、不、居、て、極、み、定、む、る、音、を、依、  
し、久、は、三、段、不、在、り、て、極、免、用、ふ、る、音、を、爲、し、初、多、四、段、不、居、  
て、極、め、令、り、る、音、戎、お、し、古、は、五、段、不、在、り、て、極、免、終、る、音、を、  
爲、せ、り。五、色、共、に、旋、字、北、義、字、持、ある、ハ、初、色、の、父、も、稟、と、る、  
色、は、と、各、く、初、躰、用、令、終、り、音、の、別、依、を、五、母、韻、に、  
受、ある、音、質、れ、る、こ、と、上、北、如、し、加、北、光、枝、が、因、辞、解、に、加、え、  
事、を、指、し、言、伎、を、事、戎、指、む、る、言、久、を、事、戎、極、免、指、言、詠、  
は、事、を、指、押、ふ、る、言、古、を、事、戎、指、治、む、依、言、と、云、る、は、未、季、ウ、  
ら、交、然、れ、ど、加、茂、宇、斯、の、門、人、不、し、て、一、言、北、解、字、爲、と、る、を、  
此、人、ぞ、始、ふ、加、く、て、此、五、聲、の、語、上、不、在、り、語、下、不、お、た、て、活、  
は、有、る、は、加、く、て、此、五、聲、の、語、上、不、在、り、語、下、不、お、た、て、活、  
機、免、お、く、其、連、聲、を、因、り、て、其、義、北、轉、り、通、ひ、は、こ、或、是、上、省、

うに下省ゆて各く一聲此言を爲れるも鮮うら交其此  
 所不盡し難々れむ其聲ども北出流諸章此因く不釋辨ふ  
 る哉俟るし

佐須良志須理須流世須禮曾須呂  
 佐良志理須世禮曾呂

是行北五聲を日文傳ふ云依如く牙呬舌末相兼と依柔音  
 其父聲を爲り阿行北元音其母韵と爲りて齊へる聲等れ  
 るが其音象を按ふり佐を佐良理と志と依聲志を志理と  
 志と志ある聲須は須流理と志と志ある聲世を世禮理と志と依  
 聲曾を曾呂理と志と志ある聲ふて共うかく良行北五聲は北  
 形象を助りて其合口言なる須流てふ言の出來しとゆぞ

起り初る依此は古今ふ佐良理佐く良く志理く志く良く  
須流理須く良く世礼理世く良く曾呂理曾く  
呂くれど謂ふ形容言北多うるを思ひ合せて辨ふ然  
て本音の下に須良佐良れど注せるは其本義ある言なり  
次不委く云然依む佐行篇の初章なる二十五言哉神典北  
ふ字俟るし  
 古傳と阿聲ふ佐行の從へる五言をふ徴し攷了てぞ所知

佐良 志良 須良 世良 曾良 乃依よ於其二十五言  
 佐理 志理 須理 世理 曾理 此譜かく北如し此章  
 佐流 志流 須流 世流 曾流 三段須流の合口言なり  
 佐禮 志禮 須禮 世禮 曾禮 其堅横はと斜に貫通  
 佐呂 志呂 須呂 世呂 曾呂 此行の三段須流をり  
 得居 抑是二十五言を須流とゆ起り交の義ふして須良須

理。須流須禮。須呂。活ハハ。須良は佐と約りて。初段ヨ居  
エ。須理を志と約りて。二段ヨ居エ。須流を須と締りて。素ハ  
ホク三段ル居ホ。須禮を世を約りて。四段ル居ハ。須呂は  
曾を約りて。五段ヨ居ハ。是を以て此行五聲ハ初義を共ハ  
爰字ハ義あり。但し其段位を五母韻の次第ハ循ふこと。既  
ル云。字ハ如し。爰字ハ説文久部ヨ行ハ。爰ハ也。一曰信也と見  
類ハ。凡て爰ハ。爰ハ。爰ハ。行ハ。兒とあり。浚駿俊峻ふどハ  
ホ。是ハ五聲ハ初義をこ。此云。子ハ。每。色。種。ハ。此。末。義。あり。  
其。下。ハ。謂。ハ。は。て。如。此。ハ。ハ。爰。字。ハ。本。義。あり。佐。志。須。世。曾  
ハ。ハ。各。ハ。良。行。ハ。五。聲。相。副。ハ。ハ。ハ。佐。ハ。初。段。去。ハ。活。用  
と成。ハ。志。ハ。二段著の活機となり。須ハ素の如く。三段爰の

活用成爲し。世ハ四段迫ハ活機也。成。ハ。曾ハ五段反ハ活機  
と成り。此ハ是行の轉用せる初あり。  
見。元。段。注。ハ。違。離。也。人。離。故。ハ。大。大。人。也。ヤ。云。ハ。位。字。書。也。も  
ハ。來。去。離。去。去。就。之。去。形。ど。見。え。著。ハ。韻。會。小。明。也。中。庸。明。則  
著。注。著。形。之。大。者。明。著。之。頭。者。ヤ。云。ハ。字。彙。ハ。章。也。と。も。有。り。  
迫。ハ。説。文。足。部。ハ。近。也。从。足。白。色。と。見。え。廣。韻。ハ。逼。也。急。也。増  
韻。ハ。窘。也。と。も。見。え。反。ハ。説。文。又。部。ハ。覆。也。从。厂。と。見。え。徐  
注。ハ。又。手。也。厂。象。物。之。反。覆。也。指。事。詩。小。雅。威。儀。反。ハ。角。弓。章。  
翻。其。反。矣。形。と。同。也。然。ハ。反。ハ。然。ハ。ハ。良。行。ハ。五。聲。也。ハ。ハ。形  
素。ハ。ハ。曾。呂。ハ。起。れ。る。言。ハ。ハ。然。ハ。ハ。良。行。ハ。五。聲。也。ハ。ハ。形  
容。ハ。ハ。機。ハ。副。ハ。へ。る。聲。等。ハ。ハ。其。本。聲。ハ。ハ。去。ハ。ハ。韻。の。み  
殘。ハ。佐。志。須。世。曾。ハ。單。聲。と。齊。れ。る。ハ。一。度。加。く。良。行。ハ。副。ハ  
て。右。ハ。音。義。成。成。せ。る。ハ。ハ。永。久。ハ。其。義。を。存。し。て。各。ハ。其。音  
ハ。自然。の。如。く。去。著。爰。迫。反。の。義。持。り。然。ハ。有。れ。ど。其。ハ

實<sup>マコト</sup>は第二義<sup>ニ</sup>の依<sup>ヨ</sup>こせ上<sup>ウ</sup>比<sup>ヒ</sup>如<sup>ニ</sup>し。其活機の大要を云む。初段を去りて更避  
猿<sup>サル</sup>酒<sup>サケ</sup>のど此<sup>コノ</sup>祖<sup>ソ</sup>言<sup>コト</sup>二<sup>ニ</sup>段<sup>ダン</sup>を著<sup>シ</sup>著<sup>シ</sup>起<sup>キ</sup>て。白<sup>シロ</sup>知<sup>チ</sup>汁<sup>ジュ</sup>痴<sup>チ</sup>代<sup>ダイ</sup>形<sup>ケイ</sup>ど祖<sup>ソ</sup>  
言<sup>コト</sup>三<sup>ニ</sup>段<sup>ダン</sup>を爰<sup>コノ</sup>起<sup>キ</sup>りて。尚<sup>ナカ</sup>摩<sup>マ</sup>為<sup>ニ</sup>研<sup>ケン</sup>ぶ。祖<sup>ソ</sup>言<sup>コト</sup>四<sup>ニ</sup>段<sup>ダン</sup>を迫<sup>シ</sup>爲<sup>ニ</sup>の  
活<sup>カク</sup>交<sup>カウ</sup>五<sup>ニ</sup>段<sup>ダン</sup>は反<sup>サカ</sup>不<sup>フ</sup>起<sup>キ</sup>て。空<sup>カラ</sup>機<sup>キ</sup>判<sup>パン</sup>其<sup>コノ</sup>徐<sup>コ</sup>如<sup>ニ</sup>の祖<sup>ソ</sup>言<sup>コト</sup>形<sup>ケイ</sup>の類<sup>ルイ</sup>  
亦<sup>モ</sup>不<sup>フ</sup>轉<sup>テン</sup>用<sup>ヨウ</sup>し出<sup>デ</sup>る言<sup>コト</sup>ども多<sup>タ</sup>の。其<sup>コノ</sup>本<sup>ホン</sup>篇<sup>ペ</sup>不<sup>フ</sup>就<sup>ジュ</sup>て見<sup>ミ</sup>る類<sup>ルイ</sup>  
はて此<sup>コノ</sup>五<sup>ニ</sup>聲<sup>セイ</sup>比<sup>ヒ</sup>然<sup>ニ</sup>起<sup>キ</sup>れる由<sup>ユ</sup>來<sup>ライ</sup>を神<sup>カミ</sup>典<sup>テン</sup>不<sup>フ</sup>稽<sup>キ</sup>ふる不<sup>フ</sup>上<sup>ウ</sup>件<sup>ケン</sup>比<sup>ヒ</sup>冥<sup>メイ</sup>  
滓<sup>シ</sup>而<sup>シテ</sup>含<sup>カン</sup>牙<sup>ガ</sup>と何<sup>ナニ</sup>る牙<sup>ガ</sup>を委<sup>ク</sup>くハ。天<sup>アメ</sup>地<sup>ツチ</sup>之<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>生<sup>ナ</sup>一<sup>ニ</sup>物<sup>モノ</sup>狀<sup>シテ</sup>如<sup>シ</sup>葦<sup>アシ</sup>牙<sup>ガ</sup>と  
女<sup>メ</sup>固<sup>クニ</sup>中<sup>ナカニ</sup>生<sup>ナリ</sup>物<sup>モノ</sup>狀<sup>シテ</sup>如<sup>シ</sup>葦<sup>アシ</sup>牙<sup>ガ</sup>之<sup>ノ</sup>抽<sup>ヒキ</sup>出<sup>デ</sup>也<sup>ナリ</sup>と有<sup>ア</sup>りて。是<sup>コノ</sup>乃<sup>ナ</sup>加<sup>カ</sup>比<sup>ヒ</sup>會<sup>エ</sup>易<sup>イ</sup>  
不<sup>フ</sup>分<sup>ブン</sup>有<sup>ア</sup>る易<sup>イ</sup>元<sup>ゲン</sup>允<sup>イン</sup>る。此<sup>コノ</sup>物<sup>モノ</sup>空<sup>カラ</sup>中<sup>ノ</sup>萌<sup>モエ</sup>騰<sup>テン</sup>りて。天<sup>アメ</sup>日<sup>ニチ</sup>を爲<sup>ス</sup>也<sup>ナリ</sup>。  
天<sup>アメ</sup>霧<sup>ク</sup>と薄<sup>ウソ</sup>靡<sup>ヒ</sup>乃<sup>ナ</sup>依<sup>ヨ</sup>時<sup>トキ</sup>哉<sup>ナリ</sup>。天<sup>アメ</sup>地<sup>ツチ</sup>開<sup>キ</sup>けし時<sup>トキ</sup>を謂<sup>イ</sup>ふ。天地之中生  
地<sup>チ</sup>を爲<sup>ス</sup>べき彼<sup>カノ</sup>一<sup>ニ</sup>物<sup>モノ</sup>の中<sup>ノ</sup>不<sup>フ</sup>別<sup>ベツ</sup>る是<sup>コノ</sup>葦<sup>アシ</sup>牙<sup>ガ</sup>をせし一<sup>ニ</sup>物<sup>モノ</sup>の生<sup>ナ</sup>れ  
る由<sup>ユ</sup>不<sup>フ</sup>て固<sup>クニ</sup>中<sup>ナカニ</sup>生<sup>ナリ</sup>物<sup>モノ</sup>と云<sup>フ</sup>も同<sup>ドウ</sup>義<sup>ギ</sup>あり。彼<sup>カノ</sup>初<sup>ハジメ</sup>発<sup>ハツ</sup>る生<sup>ナ</sup>出<sup>デ</sup>る物<sup>モノ</sup>を  
ま於<sup>マ</sup>於<sup>マ</sup>一<sup>ニ</sup>物<sup>モノ</sup>と稱<sup>ショウ</sup>し。はと其<sup>コノ</sup>物<sup>モノ</sup>の中<sup>ノ</sup>不<sup>フ</sup>含<sup>カン</sup>る牙<sup>ガ</sup>比<sup>ヒ</sup>葦<sup>アシ</sup>牙<sup>ガ</sup>如<sup>シ</sup>して  
萌<sup>モエ</sup>騰<sup>テン</sup>れる物<sup>モノ</sup>を一<sup>ニ</sup>物<sup>モノ</sup>と云<sup>フ</sup>る。此<sup>コノ</sup>差<sup>サ</sup>別<sup>ベツ</sup>る勿<sup>ナク</sup>思<sup>フ</sup>ひ錯<sup>サカ</sup>牙<sup>ガ</sup>を

と。委<sup>ク</sup>くは古<sup>コ</sup>史<sup>シ</sup>徵<sup>シ</sup>也<sup>ナリ</sup>。其<sup>コノ</sup>空<sup>カラ</sup>中<sup>ノ</sup>萌<sup>モエ</sup>騰<sup>テン</sup>れる狀<sup>シテ</sup>字<sup>ジ</sup>神<sup>カミ</sup>代<sup>ダイ</sup>紀<sup>キ</sup>不<sup>フ</sup>天<sup>アメ</sup>地<sup>ツチ</sup>  
と天<sup>アメ</sup>說<sup>セツ</sup>辨<sup>ベン</sup>く不<sup>フ</sup>云<sup>フ</sup>也<sup>ナリ</sup>。初<sup>ハジメ</sup>判<sup>パン</sup>有<sup>ア</sup>る物<sup>モノ</sup>若<sup>ニシ</sup>葦<sup>アシ</sup>牙<sup>ガ</sup>生<sup>ナ</sup>於<sup>マ</sup>空<sup>カラ</sup>中<sup>ノ</sup>云<sup>フ</sup>。古<sup>コ</sup>事<sup>ジ</sup>記<sup>キ</sup>る如<sup>シ</sup>葦<sup>アシ</sup>牙<sup>ガ</sup>因<sup>ヨリ</sup>萌<sup>モエ</sup>騰<sup>テン</sup>之<sup>ノ</sup>  
物<sup>モノ</sup>而<sup>シテ</sup>成<sup>ニ</sup>神<sup>カミ</sup>名<sup>ナ</sup>宇<sup>ウ</sup>麻<sup>マ</sup>志<sup>シ</sup>阿<sup>ア</sup>斯<sup>ス</sup>訶<sup>カ</sup>備<sup>ビ</sup>比<sup>ヒ</sup>古<sup>コ</sup>遲<sup>チ</sup>神<sup>カミ</sup>次<sup>ジ</sup>天<sup>アメ</sup>之<sup>ノ</sup>常<sup>ジョウ</sup>立<sup>リ</sup>神<sup>カミ</sup>とあ  
也<sup>ナリ</sup>。天<sup>アメ</sup>地<sup>ツチ</sup>初<sup>ハジメ</sup>判<sup>パン</sup>北<sup>キ</sup>字<sup>ジ</sup>神<sup>カミ</sup>代<sup>ダイ</sup>紀<sup>キ</sup>三<sup>ニ</sup>所<sup>ショ</sup>出<sup>デ</sup>て共<sup>ニ</sup>ア<sup>リ</sup>メ<sup>ル</sup>ツ<sup>ツ</sup>チ<sup>チ</sup>ワ<sup>ワ</sup>カ<sup>カ</sup>ル<sup>ル</sup>ハ<sup>ハ</sup>。  
ハ。メ。ヤ。有<sup>ア</sup>る然<sup>シカ</sup>れむ其<sup>コノ</sup>謂<sup>イ</sup>ゆる固<sup>クニ</sup>中<sup>ナカニ</sup>生<sup>ナ</sup>る所<sup>トコロ</sup>を抽出<sup>シュツシュ</sup>て萌<sup>モエ</sup>騰<sup>テン</sup>  
るを採<sup>サイ</sup>れり。然<sup>シカ</sup>れむ其<sup>コノ</sup>謂<sup>イ</sup>ゆる固<sup>クニ</sup>中<sup>ナカニ</sup>生<sup>ナ</sup>る所<sup>トコロ</sup>を抽出<sup>シュツシュ</sup>て萌<sup>モエ</sup>騰<sup>テン</sup>  
依<sup>ヨ</sup>時<sup>トキ</sup>しも須<sup>スル</sup>く流<sup>ル</sup>く也<sup>ナリ</sup>。峻<sup>スル</sup>欠<sup>ケツ</sup>須<sup>スル</sup>く良<sup>ヨク</sup>く佐<sup>サ</sup>く良<sup>ヨク</sup>く志<sup>シ</sup>く良<sup>ヨク</sup>く  
在<sup>ア</sup>る象<sup>ゾウ</sup>を目前<sup>マクソ</sup>不<sup>フ</sup>御<sup>ミ</sup>覽<sup>ラン</sup>せ依<sup>ヨ</sup>神<sup>カミ</sup>比<sup>ヒ</sup>御<sup>ミ</sup>心<sup>シン</sup>る。志<sup>シ</sup>く所<sup>トコロ</sup>思<sup>フ</sup>看<sup>カン</sup>せ  
る隨<sup>ツ</sup>り其<sup>コノ</sup>様<sup>サマ</sup>字<sup>ジ</sup>大<sup>ダイ</sup>御<sup>ミ</sup>言<sup>コト</sup>不<sup>フ</sup>詔<sup>ミコト</sup>ひ形<sup>ケイ</sup>はし賜<sup>タマ</sup>へる。此<sup>コノ</sup>古<sup>コ</sup>傳<sup>デン</sup>比<sup>ヒ</sup>發<sup>ハツ</sup>  
出<sup>イ</sup>て依<sup>ヨ</sup>初<sup>ハジメ</sup>よて。即<sup>チ</sup>是<sup>コノ</sup>五<sup>ニ</sup>聲<sup>セイ</sup>の元<sup>ゲン</sup>基<sup>キ</sup>とは爲<sup>ス</sup>れ也<sup>ナリ</sup>。其<sup>コノ</sup>葦<sup>アシ</sup>牙<sup>ガ</sup>の抽<sup>ヒキ</sup>  
牙<sup>ガ</sup>とる哉<sup>ナリ</sup>。始<sup>ハジメ</sup>先<sup>マ</sup>右<sup>ミドリ</sup>北<sup>キ</sup>古<sup>コ</sup>傳<sup>デン</sup>はと當<sup>タウ</sup>昔<sup>カミ</sup>あり有<sup>ア</sup>る狀<sup>シテ</sup>字<sup>ジ</sup>見<sup>ミ</sup>行<sup>ユク</sup>せ  
依<sup>ヨ</sup>神<sup>カミ</sup>形<sup>ケイ</sup>らでは語<sup>ゴ</sup>り傳<sup>デン</sup>ふ未<sup>マ</sup>じ也<sup>ナリ</sup>。道<sup>ミチ</sup>理<sup>リ</sup>れ依<sup>ヨ</sup>こせ前<sup>マエ</sup>條<sup>ジョウ</sup>を論<sup>ロン</sup>牙<sup>ガ</sup>

ると合せ考。牙  
て悟り秘あり。いで其元基の然る所以を。阿聲よ佐行此從  
牙る。五言ふ因てぞ所知ける。其は阿行篇第三章の初段れ  
依。阿佐。阿志。阿須。阿世。阿曾。此五言是あり。阿を皆例此指聲  
へて。彼此義取る哉。上件の二十五言と相照し攷ふる。初  
言此阿佐を。淺此義ふれむ。此は彼一物の須く流く。須く良  
良を在依字指して。阿須良と詔せる哉。其物分めて。清易れ  
る。晉み去めて。天日せ成まる。尚爰くせして。住懸れる  
故。阿須良やめて其言と爲り。良此開音ふ因て。阿佐を  
約り。彼譜此初段取る。佐良。佐理。佐流。佐禮。佐呂。此活機字形  
し。阿須良は乃彼爰よ。彼尚此義ある。開音して。阿佐と  
爲て。ハ。彼早は。彼小の義を形し。其字一字訓り。綜ては。

且ま淺の義。了て。淺也。淺依。淺れ。淺らむと活用。はて阿佐  
く哉。謂ふ。求をアサリ。せ訓む。乃是とゆ出さ。阿佐  
良を阿佐を約り。阿佐理を阿志と於る。阿佐流を阿須を  
於る。阿佐禮を阿世と約り。阿佐呂は阿曾と約て。淺の  
活機れる。日。葦。涸も元と。同言形り。然依。其清上れる  
物字。如葦牙とあ依。徒。譬此み。非。爰。其を含。於る所。此  
淺。る邊。元。ゆ。自然。了。葦。生。て。其。牙。と。見。錯。ふ。る。く。天。日  
此。萌。騰。り。晉。を。去。て。葦。乃。て。其。足。を。在。て。故。了。此。名。字。負。ひ。  
う。於。其。進。み。去。ま。る。時。は。も。是。世。此。旦。の。初。を。爲。り。了。  
了。朝也。从日。見。一。上。一。地。也。段注。下文云。朝者旦也。二字互  
訓。韵會。徐曰。日出於地也。廣韵。早也。也。見。淺。は。説文。不  
深也。从水。彘。段注。不深。曰。淺。不廣。亦曰。淺。と見。其。餘  
の字義。此。漏。し。於。猶。右。此。五。言。と。り。機。文。出。る。言。等。い

世多あり。本篇に見て知る。然れど阿聲。佐行の從する五言也。彼譜は初行形。佐良。志良。須良。世良。曾良。活用也。ハ。其元一。ふて。彼爰と指し。活言也。活機形也。阿佐。阿志。れど此五言を。其副ある良聲の去れる言。佐良。志良。等此二十五言を。其冠し。依阿聲。此省加り。齊へる言等。よて。共う右此古傳。或認ひ出ある。當初此神語。形依去也。疑形也。然依阿。色。凡て彼去。指めて出ざる。色れる。不。彼。阿。佐。を。彼。爰。と。指。さ。る。事。物。の。無。て。其。此。阿。佐。の。姑。く。良。行。の。五。色。を。そ。す。彼。佐。理。佐。流。れ。ど。此。五。言。不。假。り。各。く。指。詞。此。阿。字。冠。ら。し。活。用。加。し。呼。試。み。て。も。知。る。也。○ ちて上件を。此行此起。原は。各音。一義字持し。依。較。略。の。説。形。る。ぐ。亦。同。行。互。う。音。義。相。通。ふ。事。の。有。る。を。彼。

二十五言也。横五段。豎五行。不整へる上。不て。初行此五言也。共。不。佐。成。り。第二行の五言を。共。う。志。と。れ。也。第三行の五言は。共。不。須。成。り。第四行此五言を。共。う。世。と。れ。也。第五行の五言を。共。不。曾。と。成。れる。不。因。依。事。あり。故。是。を。以。て。同。行。不。耳。あ。ら。ま。佐。と。呼。ぶ。色。を。一。し。て。其。義。の。易。依。事。あり。其。也。此。一。色。此。然。る。不。非。交。志。須。世。曾。も。共。う。れ。れ。じ。趣。あり。抑。是。行。此。五。聲。か。く。彼。二。十。五。言。の。混。錯。也。て。調。へ。依。ぐ。故。不。今。し。め。一。義。字。執。て。不。決。め。難。れ。不。似。あ。れ。ど。其。中。不。就。て。佐。の。主。ある。は。去。此。義。不。て。須。良。佐。良。の。約。也。志。の。主。と。依。を。著。此。義。了。て。須。理。志。理。の。約。也。須。を。交。此。義。素。了。て。上。下。此。四。義。字。包。括。世。主。ある。は。迫。此。義。不。て。須。禮。世。禮。の。約。也。曾。此。主。

と依る。反の義も。須呂曾呂純約と志て。各々其上冠を  
 する四十五言。各々其下。爾從牙依五十言。共此義。尔差ふ事  
 ぬし。冠れる其の上冠れる四十五言と。佐志須世曾此。下有謂ひ各々其下  
 五言。如斯て其四十五言。是行五色の上。活用此所云。各々  
 祖言。如斯て其四十五言。是行五色の上。活用此所云。各々  
 言。如斯て其四十五言。是行五色の上。活用此所云。各々  
 を生ぜり。其は本篇。尔次。釈以て行く。其見て知る。各々  
 けて此五聲はも。加行と同。云。牙。呼。尔起れる。其柔。尔發  
 利ある方。と。發れる。舌音。此添ある。聲等。亦。其音象  
 自然。其趣。聞えて。右。此如く。五義。尔別。去著。尔迫。反。其  
 此顯。立。其。發。其。此。幽。を。主。言。靈。の。祐。を。爲。こ。也。上。件。此

譜面。此如し。其右。二十五言。此。み。非。本。篇。每。章。の。二十  
 其音。韻。字。譬。子。む。小。竹。葉。此。深。山。も。亮。了。喧。ぐ。如。く。骨。身  
 子。入。透。り。て。涼。志。く。覺。ゆ。と。云。ひ。加。佐。二。行。の。十。音。卷。八。坂。瓊  
 を。御。統。み。あ。し。て。瓊。響。も。由。良。ふ。振。け。て。其。音。象。此。隨。ま。佐。を  
 濯。交。る。如。此。音。れ。ゆ。と。も。云。牙。り。け。て。其。音。象。此。隨。ま。佐。を  
 初段。在。て。進。み。初。む。音。成。爲。し。志。二。段。尔。居。て。進。み  
 定。む。音。を。取。し。須。は。三。段。在。り。て。進。み。用。ふる。音。を。爲。し。  
 世。四。段。尔。居。て。進。み。令。け。る。音。を。取。し。曾。は。五。段。尔。在。り。て。  
 進。終。る。音。成。爲。せ。り。五。色。共。ま。發。字。此。義。多。持。と。る。初。音。令  
 終。音。比。別。る。は。五。母。韻。了。受。と。る。音。質。あ。る。こ。と。上。の。如  
 彼。固。字。解。み。佐。志。事。を。指。定。む。依。言。志。事。を。定。免。鎮。む。る  
 言。須。事。成。鎮。め。定。む。言。と。云。牙。れ。ど。此。未。委。う。ら。免。か  
 事。事。を。定。免。治。む。言。と。云。牙。れ。ど。此。未。委。う。ら。免。か  
 て。此。五。聲。此。語。上。尔。在。語。下。尔。於。交。て。活。機。交。り。其。連。聲

不<sup>ヨ</sup>因<sup>ヨ</sup>りて其義の轉<sup>ワ</sup>り易<sup>カ</sup>めは或<sup>カ</sup>を上<sup>カ</sup>省<sup>ハ</sup>りて下<sup>シ</sup>省<sup>ハ</sup>りて各<sup>オ</sup>  
 各<sup>ク</sup>一聲<sup>ハ</sup>此<sup>コト</sup>言<sup>ハ</sup>と爲<sup>リ</sup>よ依<sup>ル</sup>も鮮<sup>ス</sup>らざ其<sup>コト</sup>を此<sup>コト</sup>所<sup>コ</sup>了<sup>ツ</sup>盡<sup>シ</sup>難<sup>レ</sup>れ  
 尤<sup>ト</sup>其聲<sup>ト</sup>と此<sup>コト</sup>出<sup>ル</sup>諸章の因<sup>ク</sup>不<sup>レ</sup>釋<sup>キ</sup>辨<sup>フ</sup>る哉<sup>見</sup>て知<sup>レ</sup>法<sup>シ</sup>  
 多<sup>タ</sup>都<sup>都</sup>良<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>都<sup>都</sup>流<sup>流</sup>氏<sup>氏</sup>都<sup>都</sup>禮<sup>禮</sup>登<sup>登</sup>都<sup>都</sup>呂<sup>呂</sup>  
 此行<sup>ハ</sup>此<sup>コト</sup>五聲<sup>ヲ</sup>を日文傳<sup>ル</sup>云<sup>ハ</sup>依<sup>ル</sup>如<sup>ク</sup>舌上<sup>ノ</sup>剛音<sup>其</sup>父聲<sup>ト</sup>爲<sup>リ</sup>  
 阿<sup>ア</sup>行<sup>ハ</sup>の元音<sup>其</sup>母韻<sup>ト</sup>爲<sup>リ</sup>て齊<sup>ヘ</sup>る聲<sup>等</sup>形<sup>ル</sup>グ其<sup>音</sup>象<sup>ヲ</sup>  
 字<sup>ヲ</sup>按<sup>フ</sup>不<sup>ル</sup>多<sup>ハ</sup>は多<sup>タ</sup>良<sup>理</sup>と志<sup>ス</sup>依<sup>ル</sup>聲<sup>知</sup>を知<sup>リ</sup>と志<sup>ス</sup>ある聲<sup>ヲ</sup>  
 都<sup>都</sup>を都<sup>都</sup>流<sup>流</sup>理<sup>理</sup>と志<sup>ス</sup>ある聲<sup>氏</sup>氏<sup>氏</sup>禮<sup>禮</sup>理<sup>理</sup>と志<sup>ス</sup>依<sup>ル</sup>聲<sup>登</sup>登<sup>登</sup>を登<sup>登</sup>呂<sup>呂</sup>  
 理<sup>理</sup>と志<sup>ス</sup>とる聲<sup>不</sup>て共<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>加<sup>フ</sup>良<sup>行</sup>此<sup>コト</sup>五聲<sup>そ</sup>此<sup>コト</sup>形<sup>象</sup>哉<sup>助</sup>々  
 其<sup>合</sup>口<sup>言</sup>形<sup>ル</sup>都<sup>流</sup>て不<sup>レ</sup>言<sup>ハ</sup>此<sup>コト</sup>出<sup>來</sup>しとて起<sup>メ</sup>始<sup>メ</sup>依<sup>ル</sup>

此<sup>ハ</sup>古今<sup>ハ</sup>多<sup>タ</sup>良<sup>理</sup>多<sup>タ</sup>良<sup>理</sup>多<sup>タ</sup>良<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>  
 良<sup>ク</sup>氏<sup>氏</sup>禮<sup>禮</sup>氏<sup>氏</sup>良<sup>ク</sup>登<sup>登</sup>呂<sup>呂</sup>理<sup>理</sup>登<sup>登</sup>呂<sup>呂</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>  
 多<sup>タ</sup>うる哉<sup>思</sup>ひ合<sup>セ</sup>て辨<sup>フ</sup>る然<sup>レ</sup>て本<sup>音</sup>の下<sup>ハ</sup>多<sup>タ</sup>良<sup>理</sup>多<sup>タ</sup>良<sup>理</sup>  
 多<sup>タ</sup>と注<sup>セ</sup>るは其<sup>本</sup>義<sup>ト</sup>依<sup>ル</sup>言<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>次<sup>ニ</sup>委<sup>ク</sup>云<sup>フ</sup>不<sup>レ</sup>俟<sup>テ</sup>る  
 其<sup>由</sup>尤<sup>ト</sup>多<sup>タ</sup>行<sup>篇</sup>此<sup>初</sup>章<sup>ハ</sup>ル二十五<sup>言</sup>多<sup>タ</sup>神<sup>典</sup>此<sup>古</sup>傳<sup>ト</sup>阿<sup>聲</sup>  
 不<sup>レ</sup>多<sup>タ</sup>行<sup>の</sup>從<sup>テ</sup>予<sup>ル</sup>五<sup>言</sup>不<sup>レ</sup>徵<sup>シ</sup>攷<sup>ル</sup>てぞ所<sup>知</sup>ル依<sup>ル</sup>ま於<sup>テ</sup>其<sup>レ</sup>  
 多<sup>タ</sup>良<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>都<sup>都</sup>良<sup>理</sup>氏<sup>氏</sup>良<sup>理</sup>登<sup>登</sup>良<sup>理</sup>二十五<sup>言</sup>此<sup>譜</sup>加<sup>ク</sup>此<sup>レ</sup>  
 多<sup>タ</sup>理<sup>理</sup>知<sup>知</sup>理<sup>理</sup>都<sup>都</sup>理<sup>理</sup>氏<sup>氏</sup>理<sup>理</sup>登<sup>登</sup>理<sup>理</sup>如<sup>ク</sup>是<sup>章</sup>第<sup>三</sup>段<sup>都</sup>  
 多<sup>タ</sup>流<sup>流</sup>知<sup>知</sup>流<sup>流</sup>都<sup>都</sup>流<sup>流</sup>氏<sup>氏</sup>流<sup>流</sup>登<sup>登</sup>流<sup>流</sup>其<sup>中</sup>央<sup>ニ</sup>位<sup>シ</sup>て其<sup>レ</sup>  
 多<sup>タ</sup>禮<sup>禮</sup>知<sup>知</sup>禮<sup>禮</sup>都<sup>都</sup>禮<sup>禮</sup>氏<sup>氏</sup>禮<sup>禮</sup>登<sup>登</sup>禮<sup>禮</sup>豎<sup>横</sup>はと斜<sup>ニ</sup>貫<sup>通</sup>す  
 多<sup>タ</sup>呂<sup>呂</sup>知<sup>知</sup>呂<sup>呂</sup>都<sup>都</sup>呂<sup>呂</sup>氏<sup>氏</sup>呂<sup>呂</sup>登<sup>登</sup>呂<sup>呂</sup>行<sup>も</sup>三<sup>段</sup>都<sup>都</sup>流<sup>流</sup>と起<sup>ル</sup>  
 十五<sup>言</sup>は都<sup>都</sup>流<sup>流</sup>と起<sup>ル</sup>聯<sup>の</sup>義<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>して都<sup>都</sup>良<sup>理</sup>都<sup>都</sup>理<sup>理</sup>都<sup>都</sup>流<sup>流</sup>都<sup>都</sup>禮<sup>禮</sup>  
 以<sup>レ</sup>心<sup>留</sup>居<sup>る</sup>を抑<sup>是</sup>二



都呂を活々ハダダはぶぐ。都良を多タと約ヨクして。初段ハツダンル居ユゆ。都理ツを知チを約ヨクして。二段ニダンル居ユゆ。都流ツは都ツと締シメめて。素ソはあ。三段サンダン居ユ於コ交コウ。都禮ツを氏シと約ヨクして。四段シダンル居ユて。都呂ツを登トを約ヨクして。五段ゴダン居ユは。是コト以モて此コト行コト五聲ゴシヤウは初義ハツギハ。共トモに聯字レンジの義ギあり。但レし其コト段位ダンイを五母ゴボ韻インの次第シツパイル因コト依コトこ也。既レル云コト依コトぐ如シ。聯字レンジは。說文セツブン耳部ニ聯レ字ハ作レて連レ也。从レ耳ニ从レ絲ニ。从レ耳ニ連レ於レ頰ニ。从レ絲ニ連レ不レ絶レ也。と見え。段注ダンチュウル連レ負レ車ニ也。負レ車ニ者ハ以テ入レ輓レ車ニ人ト與レ車ニ相レ屬レ。因レ以テ爲レ凡ニ。相連レ屬レ之レ備レ。周人ニ用レ聯字ニ。漢人ニ用レ連字ニ。古今ニ字ニ也。と云フ。蓋シテ是レ五聲ニ比レ初義ニル引レ用レせり。其レ下ニ不レ謂フ不レ見ルる也。はて如此カ也。爲レて聯字ハ本義ニ形トる。多ク知チ都ツ氏シ登トルはと各ニ小ク良ラ行コトの五聲ニ相レ副レしうば多ク也。初段ハツダン垂シは活用ニと成リて。知チを二段ニダン散サンは活用ニと成リて。都ツを素ソの

如ク。三段サンダン聯レンは活用ニ爲ス。氏シを四段シダン昭シヤウの活機カキと成リ。登トを五段ゴダン取クの活機カキと成リ。此コト是レ行コト轉テ用レせる初ハツ也ニ。說文セツブン垂シは土部ニ。遠邊エンペン也。从レ土ニ。垂シと見え。段注ダンチュウル垂シ者ハ遠邊ニ也。莊子ニ翼ニ若ク垂シ天ニ之レ雲ニ。崔云フ。垂シ猶シテ邊ニ也。其レ大ク如ク天ニ一ニ面ニ。雲ニ也。垂シ本ニ謂フ遠邊ニ引レ伸シ之レ。凡ニ邊ニ皆シテ曰フ垂シ。と云フ。增韻ゾウイン云フ。又シテ自レ上ニ緜ニ下ニ也。とあり。散受サンジュ說文ニ肉部ニ。裸肉ニ也。从レ肉ニ。撤セツ也。見ル。段注ダンチュウル。从レ撤ニ者ハ會意也。撤セツ分レ離レ也。引レ伸シ。凡ニ撤セツ皆シテ作レ散サン。散サン行コト而シテ撤セツ廢レ矣ニ。と云フ。字彙ジスイ云フ。疏離シロ而不レ聚レ也。又シテ布ニ也。見ル。昭シヤウ也。說文ニ日部ニ。小ク日ニ。明ニ也。从レ日ニ。召シヤウ也。と見え。段注ダンチュウル。引レ伸シ。爲レ凡ニ。明ニ之レ備レ。字彙ジスイ云フ。音ニ招シヤウ。明ニ也。光ニ也。著シヤウ也。と云フ。取ク也。說文ニ耳部ニ。捕ホ取ク也。从レ又ニ。耳ニと見え。字彙ジスイ云フ。獲カク也。收シユ也。受ジュ也。資シ也。とあり。然シテ取ク也。然シテ依レル。良ラ行コトは五聲ニ也。と云フ。形容ケイヨウあり。機キ死シ副ソビは依聲イシヤウ等トあれ。其レ本聲ホンシヤウ於レひニ去リて。韻のみ残り。多ク知チ都ツ氏シ登トは單聲タンシヤウ也。齊セイれる。一度ヒトタビかく良ラ行コトは副ソビいて。右ミダリの音義オンギを成スせる。永トコシホ久ク其レ義ギを存シして。各ニ

其音ふ。自然の如く垂散聯昭取此義を持あり。然そ有れど。  
其在實は第二義取ゆべ。其活機の大要云云。初段  
祖言二段を全く散此活文三段を聯不起りて足樽誰かどの  
の祖言四段は昭不起りて寺街れど此祖言五段を盡不起  
出ある言をも多あり。其は本篇不就て見ざる。此五聲  
然起れる由來を神典ヲ稽ふる上件此謂する。國中と  
ゆ葦牙取して萌騰まる物此。天日せ爲れる後小天地の成  
定ま依趣を神代紀正書ル。其清易者薄靡而爲天重濁者淹  
滯而爲地精妙之合搏易重濁之凝竭難故天先成而地後定  
然後神聖生其中焉。何依薄靡を多那比伎淹滯を都豆伎  
と訓る。古語不頼てぞ所知る。此傳此文七。赤縣籍淮南  
子不據るれども實不

然る古傳此有る。漢文字填あはれ。然依多那比伎  
るこ也。既古史徴ふ云。予る哉見る哉。然依多那比伎  
是。棚引也。も書と依字此如く。棚引引く義あり。如と釋む  
は事も無れど。多そ都良の約り垂此義。那は奴良此約也。成  
の義不て。垂成引ふ也。都豆伎を續と云む。是未多事は無  
れど。都は都流の約り。連此義不て。連付てふ言取ゆ。上此字  
る所ヲ著せる。垂字の義をも思ふ。垂は足をも多理と  
云ふも同言取ゆ。古語不天足と云ふも。倭漢自於のら不  
相符。然れど其天と垂成び地と連付く。小都く流く也  
言取ゆ。然れど其天と垂成び地と連付く。小都く流く也  
聯免也。都く良く多く良く。知く良く。在る依状字。目前了  
見行せる。神此御情了。志う所思看せる。隨了。其様を大御言  
不詔ひ形は給へ。此古傳此發出する初よ。即是五

聲比元基也ハ爲れ也。其を右比古傳大倭小よれ。赤縣小は  
神あらで、如此語の傳ふ處を謂れ、其狀御覽せり  
るを思ひ合せて知、亦是るは、倭漢と國を異れども  
天地初発の傳は、同一致あり。抑、其元基比然る所以、阿  
聲尔多行比從へる。五言小因て、所知ら依、其を阿行篇第  
四章の初段れ依、阿多。阿知。阿都。阿氏。阿登比五言是なり、阿  
を皆例比指聲ふて、彼の義なる哉。上件比二十五言と。相照  
去攷ふ依り。初言比阿多也。當比義あり。此は彼、一物比、都  
都流く、都く良く、在る哉指して、阿都良と詔せる哉。其物  
己尔判て。精妙なるが。天霸と薄靡く小、連くぞして、垂ひ  
周れる故り。阿都良や、のて其言を爲り。良比開音、尔因て。

阿多と約り。彼譜の初段なり。多良多理多流多禮多呂比活  
機字なり。阿都良也乃、彼連の義なるが。開音して阿多比爲  
と當比義ありて、當て、當比當也、當らむ也、括用く哉、謂ふ煖也  
同じ活用あれど、其言傳はら、適て火、尔、あると云ふ言  
比之残。ちて阿多良は阿多と約り、阿多理を阿知と約る也。  
阿多流、阿都と約る也。阿多禮を阿氏と約り、阿多呂は阿  
登也、約りて、當比活機なる依り。煖味充も、元々同言あり。然  
依り、天日比氣勢の隈れく廣大也。垂成び支連成也。始ある  
時は也。是世煖氣比當て依り、初れをば、形也。  
色段注、尔、值者持也。田、與田相持也。引伸之、凡、相持相抵、皆曰  
當、報下、曰、當、事人、也、是、其、一端也、韵會、尔、敵也、直也、主也、即也  
底也、中也、尔、ど、見、え、煖、也、說文、尔、盪也、从、火、爰、也、色、段注、尔、盪各  
本作、温、今、正、說卦傳、日、以、暄、之、暄、亦、作、煖、蓋、煖、字、也、尔、字、書、と

め小本作煥ハ火ヒ奕ヒ色シ今文作煖ハ或ハ作暎ハ暖ハ火ヒ氣キ也也如如ど見え  
たり其餘の字義を此不洩し於猶右此五言より出たる言  
等いぞ多あり本  
篇を見ても知る然れど阿聲ア多行タ此從シ牙ヤ依イ五言ウ也也彼譜  
此初行チ如如多良タ知良チ都良ト良リ登良ト氏良シ活機ハ如如阿多ア知チ如如此五  
言也也其副ハある良聲リの去サれる言コト多良タ知良チ等ト此二十五言は  
其冠ハ依イ阿ア聲セ此省ハ加カ齊シ牙ヤ依イ言コト等ト小ト共ト右ヘ此古傳コ字  
詔ミコトノコトひ出デある當ツキ初ハジメ乃ハ神語カミコト如如此コト疑ウタガハシ如如其コト阿ア色シはも凡  
無クては決ケめて出デざる色シ如如るル彼阿多ア多タ彼連ツラナと指サシする物  
あり彼垂ツラナと指サシする事ありて起トキれる言コト如如るル以モて加カく是  
謂イハふ如如り其コト此阿多ア多タ姑ニく良行リの五色シをそ牙ヤ彼多理タ多  
流リ如如ど此五言コト假ニ各ニ指サシ詞コト此阿多冠ハらハ活用カクのし呼  
試シみても知チ○ハちて上ウ件ケンを此行コト此起トキ原ハジメは各音カク一ヒト義コトを

持テ依イ都較トの説セれるル亦同行ナリ互ニ音義相通ニ事コト此有ル  
を彼二十五言コト此横ヨコ五段ゴ豎タテ五行ゴ不整チへる上ウ尔ニ初行ハジメの五  
言は共ト多タと成ル第二行ニ此五言コト共ト知チ如如如如第三行  
此五言コト共ト小都コト如如如如第四行ニの五言コトハ共ト小氏コトと成ル第  
五行ニ此五言コト共ト登ト如如成ル如如因依事コトあり故是を以て  
其音の相通ニ不耳チ如如多タと呼フふ色シは一ヒト小コトして其義コト此  
易依事コトあり其コト此一色シのみ然シる小非チ交ニ知都チ氏登トも共ト  
趣ニ如如如如抑ニ是行ニ此五聲コト加カく彼二十五言コト混錯ニ如如て調テ牙ヤ  
如如故ニ今イマしも一義コトを執トては決ケめ難シ交ニ似ニれど其中ニ不  
就スて多タ此主コトある登ト垂ツラナの義コトよて都良ト多良リ此約チ也也知チ此主コト  
依イを散チの義コトよて都理ト知理チ此約チ也也都トを聯ツルの義コト素モト小コト上下

此四義を持ち、氏の主あるは、昭此義不て、都禮、氏禮の約也。  
 登の主と依を、取此義不て、都呂、登呂の約也。志て、各く其上、  
 冠れる四十五言、各く其下、不從子依五十言、共此義子  
 差ふ事形し。各く其上、冠れる四十五言、多知都氏登  
謂ひ、各く其下、不從子依五十言、多知都氏登の、下、不從  
子、行、此、各く五十言、有るを云ふ、其、既、小、古、言、活、用  
此、條、多、行、此、所、云、各、如、斯、其、四、十、五、言、也、五、十、言、也  
は、是、行、五、色、此、機、依、祖、言、依、依、猶、是、也、中、轉、用、假、借、出  
と、る、諸、言、を、更、形、ゆ、依、言、不、て、も、切、り、て、此、行、の、五、色、也、成、成  
依、是、は、自然、不、其、義、を、生、せ、り、其、は、本、篇、よ、次、く、釈、以、て、行  
く、我、見、て、知、る、依、し、 ちて此、五聲はも、那行と同ぶく、舌上、不起れるが。  
 舌は元とゆ、剛、不、光澤、れると、柔、不、滑潤、依、依、之、相、兼、と、依、所  
 不て、此行を、其、剛、不、光澤、ある方とゆ、發れる聲等、形る故よ。

其、音、象、自、然、不、其、趣、不、聞、え、て、右、此、如、く、五、義、不、別、也、垂、散、聯  
 昭、取、也、此、顯、不、立、ち、聯、を、此、幽、字、主、り、て、言、靈、の、幸、成、爲、と、也  
 例、此、如、し。其、は、右、二、十、五、言、此、譜、を、更、形、也、本、篇、每、章、の、二、十  
と、同、じ、舌、音、形、の、ら、彼、行、を、柔、よ、起、り、て、金、の、如、く、此、行、を、剛  
不、起、り、て、易、此、如、く、形、を、謂、あ、り、是、を、以、て、多、那、の、二、行、を、表  
裡、の、如、く、夫、婦、の、如、く、相、通、ふ、こ、也、懸 ちて其、音、象、此、隨、不、多  
 居、宇、斯、此、早、く、教、子、遺、れ、あ、る、が、如、し。  
 は、初、段、不、在、り、て、立、初、む、る、音、を、爲、し、知、き、二、段、不、居、て、立、定  
 む、る、音、成、形、し、都、を、三、段、不、在、り、て、立、用、不、依、音、を、爲、し、氏、を  
 四、段、不、居、て、立、令、依、る、音、成、形、し、登、は、五、段、不、在、り、て、立、終、る  
 音、成、爲、せ、り。五、色、共、み、聯、字、の、義、字、持、と、依、と、初、色、此、父、子、稟  
母、韻、不、受、あ、る、音、質、形、る、こ、と、上、此、如、し、彼、固、辭、解、み、多、は、事  
此、心、を、指、持、た、言、ふ、り、知、る、事、を、持、ち、合、以、言、都、を、事、を、あ、は

去持の言、或は事を合し押ふる言、登も事を持ち加くて此  
 治むる言と云、依も其謂あ依事おれど委のら更加くて此  
 五聲此語上不在に語下おきて活機死おく。其連聲小因  
 了て。義の轉也易ゆ。はと或き上省の也下省ゆて。各く一聲  
 此言を寫き依も少のら更其は此所了盡し難れむ。是聲  
 どもの出る諸章此。因くお釋辨ふるを俟るし。

那ナ 奴ヌ 爾ニ 奴ヌ 流ル 補ホ 奴ヌ 禮レ 能ネ 奴ヌ 呂ロ  
 那ナ 良リ 爾ニ 流ル 補ホ 禮レ 能ネ 呂ロ

是行此五聲也。日文傳云依如く。舌上此柔音。其父聲也爲  
 り。阿行の元音其母韻也爲了て。齊へる聲等形る。其音象  
 戎按ふよ。那を那良理と志と依聲。爾を爾理く志とる聲。能を能呂  
 奴は奴流理也志とる聲。補を補禮理と志とる聲。能を能呂

理と志と依聲也。共りかく良行此五聲。戎の形象を助け  
 て。其合口言れる。奴流てふ言此。出來しよ了て。起り始る依。

此は古今の奴良理、奴く良く、爾理く、爾理理く、奴流理、奴く  
 流く、補礼理、補く礼く、能呂理、能く呂く、れど謂ふ類の形容  
 言の多うるを思ひ通して如此を謂ふあり。然て本邑此下  
 有、奴良、那良、れど注せるは、其本義とる言等形り、其由を下  
 云、を、然依也。那行篇此初章れる。二十五言戎、神典此古傳  
 候、を、し。

那良 爾良 奴良 補良 能良 と。阿聲小。那行の從へ  
 那理 爾理 奴理 補理 能理 依五言と云。徵し致子  
 那流 爾流 奴流 補流 能流 了是字知まゆ。は於其  
 那禮 爾禮 奴禮 補禮 能禮 二十五言此譜かくの  
 那呂 爾呂 奴呂 補呂 能呂 如し。是章小、第三段、奴  
 流の合口言れる

其最中位して其豎横はと斜に貫通する趣に意を潜  
 めて此行も三段奴流より起まる所以と云ふは心得居る  
 抑此二十五言は奴流より起り滑の義にして奴良奴理奴  
 流奴禮奴呂也活々流奴良也那と約して初段不居り奴  
 理を爾と約して二段不居り奴流を奴と締めて素の流  
 三段不居り奴禮を爾と約して四段不居り奴呂は能と  
 約して五段不居り是を以て此行五聲は初義を共不滑字  
 の義あり但し其段位を五母韻の次第に循ふこと例比如  
 し滑字は説文水部利也从水骨色と見え段注に古多借  
 爲汨亂之汨也字彙不滑達也達泥滑也凡ど見え  
 此五行五色のみれ此字義は由る其もと舌上の滑潤を  
 る所なり奴流理を出る色あり其なり其を滑字奴と謂ふ  
 是滑なり所は義ありて更なり菜を那と云は奴良は約り  
 土字爾と云は奴理の約に根枝祿と云は奴禮は約り野を

能也云は奴呂は約なり那爾奴祿能の一音なり言等不  
 數多あれど皆是と云未は轉用小起れり其在因あ依所  
 尔云むとけて如此次を滑字は本義なり那爾奴祿能は  
 未あ各く尔良行は五聲相副しく候那は初段成の活機と  
 成て爾を二段柔の活用せり也奴を素は如く三段滑の活  
 用字爲し爾を四段挺は活機を成り能は五段乗は活用せ  
 成れ也是ぞ此行の轉用せる初依也成て説文戊部小就也  
 書ども尔畢也善也又平也也云ひ柔を説文木部小木直  
 也從木尔色段注に凡木曲者可直直者可曲引伸爲凡乘弱  
 之稱とあり挺を説文土部小八方之地也从土延色と有れ  
 だ祿礼より由れ支が如かれど老子小挺埴以爲器也云語  
 あれを用以あり乗を説文木部小乘子作て覆也と見え  
 段注に加其上曰乘乘車是其一端也と云ひ他字書等小音  
 成御也駕也登也跨也憑也治也覆也又因也然依尔良行  
 ど有也然て乗を素より能呂小根せざる言なり

此五聲はもど形容とゆ。機支副牙依聲等ふれむ。其本聲於  
 ひ小去て韻のみ殘也。那爾奴禰能の單聲と齊まるぐ。一度  
 かく良行此副ひて。右此音義を成せるとゆ。永久よ其義字  
 存志て各く其音小。自然の如く成柔滑挺乘の義を持とゆ。  
 然は有れど。其を實ルを。第二義れること。上此如し。其活機  
字云む小初段を成り起りて生鳴則此祖言二段を柔  
 不起てて似煮取せ此祖言三段は滑小起りて塗濡あど此  
 祖言四段は起てて胡煉根此祖言五段を乘小起  
 てて糊器告法詛取どの祖言ある類ひを轉用し出ある  
 言ども多りゆ其を  
 本篇ル就て見登し。けて此五聲此然起れる由來字神典了  
 稽ふる小神代紀一書小天地未生之時譬猶海上浮雲無所  
ネカレソノナカニハコトシテモトクニオヒムガヒチノオカニナリキ  
 根係其中生一物如葦牙之初生塗中也と所見ある此傳ル

其中生一物也。有依五字ぞ。此行の起原字知る文也。其  
中  
 也ハ上此條く小引とる文等小。天先成而地後定。然後神聖  
 生其中焉。よと天地之中生一物。狀如葦牙。はと國中生物。狀  
 如葦牙之抽出也。れども見えとる皆同じ事なり。然るを彼天地を分てし一物なり。其  
 中と稱去依一所あてて。其中小別了葦牙此如也。一物の生  
 れる傳ルて。其葦牙あせ依物を萌騰りて天日也爲也。はと  
モエテガ  
 天霸也。も薄靡ハ依物あるぐ。易元此象取也。し事。去て小上  
カミ  
 小云依が如し。か此天地と割也。し物をま於一物と指して。  
はと  
 也。一物とハ云依あり。此事去て小。佐行けりて其萌騰也。し物  
此所了辨牙とゆ。立却りはと思ふる也。  
 の易元此象也。志哉思ふ。其字含於其中と指ある所の  
 會元此象也。し事も推して知るし中。字を那加せ訓る言此



意を滑所ヌラカまナラカ成所の約ナラカ了ナラカて。生戎那流と訓るを。既スデ了那聲  
 の那理。那流。那禮ヌラカ々活ヌラカ也。其滑ヌラカ々ヌラカ也。ある所ヌラカと正滑ヌラカ々出  
 多依故ナ生依と謂イふ。然ナまナ那流の本言を奴良流ナ也。  
説文云。地。元氣初分。輕清。易為天。重濁。會為地。万物所陳列也。从土也。色と云ひ也。字を也。女會也。象形と云ふ也。此所の古  
 傳ナは因ナれる制字ナなる也。赤縣太古傳ナ論ナ牙ナをナ見ナて知  
 ぶ。然依ナる此方ナ決ナ著ナの詞ナある。那理ナてナ不ナ言ナう。也。字を填  
 ぶ。然依ナる古人ナ此ナ深ナくナ惟ナふナ旨ナありナ事ナれナぬ。其ナをナ日本ナ靈ナ異ナ記  
 ぶ。女會ナの字ナ。闕ナ字ナを用ナひてナクナボナとナモナレナナナタナリナとナもナ訓ナみ  
 ぶ。名義抄ナもナ志ナりナ訓ナむナ字ナ類ナ抄ナもナツナビナとナ訓ナむナ此ナをナ西ナ土ナ此  
 字ナ書ナりナぬナ字ナをナれナぬナ此ナ方ナ此ナ古人ナのナ制ナ字ナとナ聞ナゆるナをナもナ思  
 合ナふ。然ナらナ其ナ滑ナ所ナをナ了ナしナ處ナをナ今ナ此ナ何ナ所ナ形ナるナとナ謂ナふナ。穴  
 門ナ固ナのナ海ナ在ナるナ速ナ吸ナ名ナ門ナとナもナ速ナ鞆ナのナ迫ナ戸ナ也ナもナ云ナ所ナ小ナし  
 て。此ナをナ大地ナ此ナ會ナ門ナはナ謂ナもナるナ凹ナルナ有ナれナぬナ此ナ所ナやナぐナて。

彼カ牙カ戎カ含カ終カる。滑カ所カ小カれカもカ有カるカ依カ。桑家漢語抄カ。會カ門カ此カ奈  
了。本カは彼カ滑カ所カのカ名カ形カるカ後カ了カ人カのカ會カ門カ小カもカ云カ。已カとカ通カ也。  
 速カ吸カ名カ門カてカふカ名カ義カをカ伊カ豆カ速カくカ濁カをカ卷カ交カてカ朝カ多カ吸カ容カるカ  
 兼カ戸カのカ義カもカ此カ門カ近カ交カ阿カ波カ此カ鳴カ戸カのカ同カじカ類カのカ戸カ小カしカて。  
 名カ義カもカ同カ交カをカ思カふカ也カ。阿カ波カ此カ成カ鳴カ此カ字カこカそカ異カ其カ訓カをカ  
 並カ同カ言カ此カ活カ機カ也カ。故カ有カ也カ。赤カ縣カ此カ上カ古カ小カめカ其カ聞カえカ高カくカ其カ固  
 是カ滑カ所カのカ也カ。故カ有カ也カ。赤カ縣カ此カ上カ古カ小カめカ其カ聞カえカ高カくカ其カ固  
 籍カどカめカ。谷カ神カ百カ谷カ王カ玄カ北カ之カ門カ天カ地カ之カ根カ大カ壑カ陽カ谷カ無カ底カ之  
 谷カ小カとカ稱カしカ。其カ所カ在カ字カ谷カ口カ也カ。云カひカ東カ風カ字カ谷カ風カとカ云カ。然カれカ也。  
 其カ謂カもカるカ中カ小カ海カ苔カ此カ類カのカ生カ於カ交カてカ。奴カくカ流カくカ滑カをカきカ。奴  
 奴カ良カくカ。奴カくカ呂カくカ在カるカ状カ字カ。目カ前カ了カ見カ行カせるカ神カ此カ御カ情  
 了カ。志カうカ所カ思カ看カせるカ隨カ了カ。其カ象カをカ大カ御カ言カふカ詔カひカ形カはカしカ賜カ牙  
 依カぐカ。右カ此カ古カ傳カのカ發カ出カとカ依カ初カ了カ。即カ此カ五カ聲カ此カ元カ基カとカをカ爲カ

れ也。其は右に古傳は、當昔あり有る状態。正目、御覽せし條、小論する説等。 上此條、小論する説等。 不、按ひ合せて辨ふ處し。 い、て其元基の然る所以也。 阿、聲よ。 那、行此從へる。 五、言ふ因てぞ所知ける。 其、阿行篇第五章の初段、形依、阿那、阿爾、阿奴、阿彌、阿能の五言是れ也。 阿、聲皆例、此指聲ふて、彼の義、依を、上、件、此、二十五言と、相照し、攷ふ、る、小、初、言、此、阿、那、也。 孔、此、義、れ、ま、む。 此、は、彼、滑、所、れ、る、所、の、奴、く、流、く、奴、く、良、く、也、在、る、を、指、ま、て、阿、奴、良、と、詔、せ、る、哉、其、中、小、含、免、依、物、の、葦、牙、れ、を、萌、騰、ゆ、う、於、其、氣、勢、比、垂、成、引、る、依、象、か、此、古、語、う、天、之、壁、立、極、と、必、有、依、如、く、塗、立、と、る、状、子、瞻、也、れ、む。 阿、奴、良、や、ぐ、て、其、言、也、も、爲、ゆ。 良、の、開、音、小、因、り、て、

阿那也約也。彼譜此初段形。那良。那理。那流。那禮。那呂。此活機字也。阿、奴、良、也、乃、彼、滑、の、義、あ、る、が、開、音、し、て、阿、那、也、爲、す、と、空、此、義、あ、り、然、れ、ど、此、上、件、く、如、く、活、用、く、言、は、傳、は、ら、交、て、殊、り、種、く、此、轉、用、あ、り、其、本、篇、を、見、て、知、る、し、 阿、那、良、は、阿、那、也、約、也。 阿、那、理、を、阿、爾、と、お、ま、ゆ。 阿、那、流、を、阿、奴、と、お、ま、ゆ。 阿、那、禮、を、阿、彌、と、お、ま、ゆ。 阿、那、呂、は、阿、能、也、約、ゆ、て、孔、の、活、機、形、る、が、後、不、去、其、聞、え、祗、世、の、初、子、は、天、霽、も、然、云、子、依、こ、也、著、し、其、は、言、此、本、を、阿、奴、良、れ、る、よ、塗、立、と、依、如、く、圓、く、小、空、れ、志、て、觀、也、る、哉、惟、不、也、 孔、は、說、文、了、通、也、 段、注、不、通、者、達、也、於、易、卦、爲、泰、孔、訓、通、故、俗、作、空、穴、字、多、作、孔、其、實、空、者、竅、也、作、孔、爲、段、借、凡、言、孔、者、皆、所、以、嘉、美、之、乎、曰、此、即、今、甚、孔、甚、也、是、其、義、或、曰、詩、言、亦、孔、之、醜、豈、嘉、美、之、乎、曰、此、即、今、甚、字、通、於、美、惡、之、意、也、 見、え、空、を、同、書、小、竅、也、从、穴、工、邑、段、注、

尔今俗語所謂孔也。天地之間亦一孔耳。といひ。他字書ども  
音孔虚也。又大空天也。れど見えぬ。古言此阿那也。彼  
凡て事を切らぬ。乃ち穴の稱と形。然て空も云々。美惡通  
孔空の字義。乃ち符牙り。かくて名を那と云ふも。實に阿那此  
本篇を見て知る。然れど阿聲は。那行此從牙。依五言と。  
彼譜此初行れる。那良。爾良。奴良。彌良。能良の活用也。ハ。其元  
一にして。彼滑と指ある言。此活機形ゆし。阿那阿爾形也  
此五言を其副は。依良聲の去れる言。那良爾良等此二十五  
言を。其冠ある阿聲は。省加り齊へる言等也。共尔右此古  
傳字詔ひ出は。依當初此神語形る也。疑ふ。然るに阿。色  
指事物の無ては。決めて出ざる色ある。彼阿那也。彼滑と  
指とる所あり。彼成と指ある依物ありて起れる言形る也。以

て。かくハ謂ふあり。そは此阿那。姑く良行此五色をそ牙。  
彼。那理那流。れどの五言。假し各指色。の阿字冠らし。活  
用加し。呼試み。○はて上件を。是行此起原。よる各音。一  
も知る。交れ也。○はて上件を。是行此起原。よる各音。一  
義を持は。依較畧此説。亦依。亦同行互。音義相通ふ事。此  
有依也。彼二十五言の横五段。豎五行。亦整牙る上。初行  
の五行也。共了那と成也。第二行此五言を。共尔爾とれ。第  
三行此五言は。共尔奴と成也。第四行の五言也。共了彌と形  
也。第五行の五言を。共尔能と成れる。不因依事也。故是を  
行ぬ。其音此相通ふ耳。あら。那を呼ぶ。色を。一。子。し  
て。其義の易る事也。其此一色のみ。然る。非。爾。奴。祿  
能も。共了。抑。是。行。の。五。聲。も。加。く。右。二。十。五。言。此。混。錯。也。  
調へる。故了。今しも一義字執て。決免難。交尔似され也。

其、中、尔、就、て、那、の、主、ある、を、成、の、義、不、て、奴、良、那、良、比、約、也、爾、  
 比、主、と、依、を、柔、比、義、了、て、奴、理、邇、理、比、約、也、奴、を、滑、の、義、素、不、  
 て、上、下、の、四、義、を、包、括、彌、比、主、ある、を、挺、比、義、不、て、奴、禮、彌、禮、  
 の、約、也、能、比、主、と、依、を、乘、の、義、不、て、奴、呂、能、呂、比、約、と、志、て、各、  
 各、其、上、了、冠、を、る、四、十、五、言、各、其、下、不、從、へ、る、五、十、言、共、了、  
 此、義、も、差、ふ、事、れ、し、各、其、上、に、冠、を、る、四、十、五、言、と、ハ、那、爾、  
 奴、能、を、頭、に、冠、を、る、五、十、言、也、ハ、那、爾、奴、  
 言、能、の、下、不、從、を、謂、ひ、各、其、下、不、從、へ、る、五、十、言、也、ハ、那、爾、奴、  
 祿、能、の、下、不、從、を、謂、ひ、各、其、下、不、從、へ、る、五、十、言、也、ハ、那、爾、奴、  
 既、不、古、言、活、用、此、條、那、行、の、所、云、依、が、如、し、斯、て、此、四、十、五、  
 言、也、五、十、言、也、ハ、是、行、五、色、比、機、なる、祖、言、於、る、が、猶、其、を、り、  
 轉、用、假、借、し、出、さ、る、諸、言、は、更、に、他、言、不、て、も、切、り、て、此、行、  
 此、五、色、と、成、終、依、を、備、と、自、然、了、其、義、を、生、せ、り、其、は、本、篇、不、  
 次、く、釈、以、て、行、く、了、て、此、五、聲、は、も、多、行、也、同、志、く、舌、上、不、起、  
 を、見、て、知、る、を、了、し、

れ、る、が、舌、を、元、よ、り、剛、尔、光、澤、取、る、と、柔、も、滑、潤、を、依、と、相、兼、  
 る、依、所、不、て、此、行、を、其、柔、も、滑、潤、れ、依、方、を、り、發、ま、る、不、鼻、音、  
 純、漆、ある、聲、等、あ、れ、ど、其、音、象、自、然、了、其、趣、も、聞、え、て、右、純、如、  
 く、五、義、小、別、也、成、柔、滑、挺、乘、を、比、顯、尔、立、ち、滑、也、比、幽、字、主、り、  
 て、言、靈、比、幸、成、爲、こ、也、例、の、如、し、其、右、二、十、五、言、比、譜、を、更、  
 あり、本、篇、每、章、の、二、十、五、言、  
 も、み、あ、此、例、も、差、ふ、事、也、然、て、此、五、色、多、行、と、同、じ、舌、音、れ、  
 あり、柔、を、起、り、て、鼻、音、を、兼、終、る、事、を、契、冲、が、此、行、の、説、了、舌、  
 不、て、鼻、を、彈、じ、鼻、を、入、る、色、れ、る、故、に、鼻、を、強、く、塞、ぶ、て、是、ナ、  
 ニ、又、ネ、ハ、此、五、音、は、都、り、云、れ、終、色、れ、り、と、云、了、り、實、は、然、る、  
 言、不、  
 こ、也、  
 了、て、其、音、象、の、隨、尔、那、を、初、段、尔、在、り、て、成、初、む、依、音、成、  
 爲、し、爾、は、二、段、も、居、て、成、定、む、依、音、成、れ、し、奴、を、二、段、尔、在、り、  
 て、成、用、ふ、る、音、を、爲、し、彌、は、四、段、も、居、て、成、令、去、依、音、字、爲、し、



